

又ハ契約ニ因リ一々指名シ禁止又ハ制限シタル所  
 爲ニアラサレハナリ○法文ハ單ニ裁判所ノ爲メ查  
 定ノ二元素ヲ揭示ス即チ所爲ノ不注意タル性質實  
 際ノ事情是レナリ○例ヘハ被保人一宴會ヲ與ヘン  
 トシ保險サレタル家屋ノ近傍ニ藁又ハ苜草ノ堆積  
 シアル其所有地ノ一部ニ於テ花火ヲ發セシメ其火  
 花焯々トシテ散下シ又ハ斜進セシニ因リ藁又ハ苜  
 草ニ通火シ火災ニ及ヒタリ或ハ暴風ニ際シ木造ノ  
 家屋ニ無數ノ提灯ヲ點シ又ハ家屋ノ近傍ニ於テ乾  
 草、枝條、藁類ヲ燃カシメタル所亦タ然リトス爰

ハ被保人ニ於テ重大ナル過失アリトシ其責任ヲ生  
 スルハ所爲ノ性質ヨリハ寧ロ此所爲ヲ爲シタル場  
 合ノ事情ナリ何トナレハ法律ニ於テモ警察規則ニ  
 於テモ煙火ヲ放チ無數ノ提灯ヲ點シ又戶外ニ於テ  
 庭園ノ殘物及ヒ藁ヲ燃クノ制禁ナケレハナリ  
 之レニ反シ日本ノ職工中ニ於テ屢々見受ケタル如  
 ク其身ヲ煖メ又ハ食物ヲ烹ル爲メ通常竈場ノ外、材  
 木ヲ切斷散置シ火災ノ機會トモ成ル可キ事業ノ中  
 ニ於テ火ヲ燃クハ其性質ニ因リ不注意ノ所爲ト  
 看做サル可シ



裁判所ハ容易ニ被保人、其婢僕又ハ被保人ニ於テ不注意ノ所爲ヲ制止スル爲メ十分ナル權力ヲ有スル同居人ノ責任ニ歸ス可キ重過失ニ付キ判決ヲ下スヲ得可キカ如シ

此保險者責任ノ數個ノ除去ハ唯タ契約ノ缺文シタル場合ニ於テノミ施行ス可クシテ保險者ノ責任ヲ約定シタル特別ノ條款ニ因リ廢棄スルヲ得ルヤ否ニ付テハ疑惑ヲ生スルヲ得可シ○爰ニハ契約自由ノ元則ヲ施行スルヲ得可キ乎是レ然ル可シト思ハレス因テ被保人ノ過失又少クトモ我第八百四十

八條ニ豫定シタル重大ナル過失ノ責任ヲ保險者ニ歸スルノ目的ナル條款ハ無益タルヲノ附帶記載ヲ規定シタリ○寔ニ何人ニ限ラス法律規則ノ違犯ニ付キ民法上ニ於テモ其無責ヲ保險セシムルハ公ケノ秩序ニ違フモノナリ是レ既ニ第一項ニ豫定シタル過失ニ適用スルナリ第二項ノ場合タル重大ノ過失ニ付テハ若シ被保人其過失ノ結果ヲ保險者ニ負擔セシムルハ最モ疎卒ナル不注意ヲモ自ラ警メスシテ損害ハ常ニ保險者一人ニ止マラス且ツ保險ヲ爲サシメサル多人數ノ所有主ニ及フ可キナリ且



ツ又不注意ノ外貌ヲ偽リ故意ナル火災ニ付キ民事  
上ノ無責ヲ保全スル爲メ容易ナル方法ナル可シ  
然リトテ吾輩ハ第八百三十八條ニ於テ賃借人ハ過  
失ノ推測ニ基ツキタル所有主ノ訴權並ニ過失ノ直  
接ナル證據ニ基ツキタル隣人ノ訴權ニ對シ有効ニ  
自身ヲ保安スルコトヲ得可シト云ヘリ然レモ此二ツ  
ノ場合ニ於テハ本條第一項及ヒ第二項ヲ以テ確定  
シタル性質ノ過失ニアラサルコトヲ想像ス可シ

第八百四十九條 火災保險ニ於テ保險人ハ内外ノ戰

争、暴徒ノ亂行、火山ノ破裂、地震若シクハ早急ニ儲藏

シ又ハ堆積シアル芻草又ハ收穫自然ノ發火ニ原由  
シタル火災ノ責メニ任セサルモノトス但シ其責メ  
ニ任ス可キ明約アルキハ格別ナリトス

註解

第八百四十九條 佛國ニ於テハ火災保險ニ關スル法  
律ナキヲ以テ保險者ハ本條ニ列記シタル原因ヨリ  
生スル火災ヲ其責任ヨリ除去スルコトヲ忘レス且ツ  
此上數多ノ原因ヲ除去スルナリ○然レモ法律ヲ以  
テ此事項ヲ規定スル以上ハ斯點ニ付テモ猶ホ他處  
ニ於ケルカ如ク法律ハ未熟練又ハ不注意ナル契約



者ノ爲メニ注意ヲ盡サ、ル可ラス又タ以テ契約者  
 雙方ノ意思ニ付キ訴訟ノ生スルヲ豫防スヘシ  
 爰ニ保險者ノ責任ヨリ除去シタル原因ハ各別ニ之  
 ナ復説スルヲ要セス概スルニ皆ナ契約者ノ豫想外  
 ニ出テ非常ナル性質ヲ有スルモノト謂フヲ得ヘシ  
 若シ豫想内ニ在リトセハ一層巨額ナル保險料即チ  
 賦金ヲ約定セシナルヘシ

吾輩ハ其中ニ付キ唯末段ノ原因即チ苺艸及ヒ收穫  
 物ノ自然燃燒ノヲテ拔擧シ而シテ此除去ニ關シニ  
 ツノ理由ヲ揭示スヘシ先ツ艸木溼蒸(未乾)ノ爲メ自

然發火スルノ事實ハ日本ニ於テ之ヲ知ル者少ナク  
 シテ被保人ハ法律ニ因リ其注意ヲ起スヘシ而シテ  
 末段ニ於テ會社ノ取結タル保險契約書中ニ本條ノ  
 記載ヲ命スルモ之カ爲メナリ次キニ法律ハ此除去  
 ニ因リ惡ムヘキ詐僞ヲ防止セリ而シテ其詐僞タル  
 之ヲ爲スヲ容易ニシテ之ヲ發見スルヲ極テ困難ナ  
 ルモノナリ例ヘハ惡心ナル被保人アリテ法律ノ豫  
 防ニ關ラス其保險セシメタル家屋ノ燒失スルヲ利  
 益トナシ其中ニ猶鬱釀スヘキ(未乾)苺艸又ハ收穫物  
 ヲ堆積シ而シテ其因テ發シタル火災ヲ此人力ノ及



ハサル原因ニ皈スルヲ得ヘシ嚴密ニ論スレハ此場  
 合ハ前條第二項ニ附入スルヲ得ヘシト雖其中ニ附  
 入スルハ常ニ爭ヒ易キ實際ノ事實如何ニ關係ス  
 ヘシ○爰ニハ儲藏ノ早急ニ過キシヤ否ヤヲ論スル  
 ニ及ハスト謂フヲ得ヘシ單ニ其燃燒ハ自然ニ發セ  
 シヤ否ヤノ事實ヲ論スヘキナリ此點一ヒ確定シタ  
 ルハ儲藏ノ早急ナリシ過失ハ復タ隨テ確定スヘ  
 シ

### 第八百五十條

保險人ハ保險建物ノ假ヒ燒失セサル

ルト雖モ火災ノ延燒ヲ防止スル爲メ之ヲ破壞シタ

ルルハ其責メニ任ス可キモノトス但シ其破壊ハ火  
 災地ノ管廳又ハ防火具ヲ有効ニ指揮セシ者ニ於テ  
 必要ノモノト認定シタルルニ限ル可シ

#### 註解

第八百五十條 元則ニ於テ火災保險ハ出火ニ因リ燒  
 失シタル物件ニ及ヒタル損害ヲ補償スルノ目的ニ  
 過キサレモ若シ火災ノ必至ナル結果トシ其他ノ損  
 害アリシルハ保險者其損害ノ責任ヲ擔保スルヲ當  
 然ナリトス故ニ若シ火災中保險シタル物件ヲ運出  
 シ爲メニ摧破シ又ハ損シタルルハ保險者其價格ヲ



償フヘキハ毫モ疑ヒナカルヘシ  
 法律ハ火足ノ進歩ヲ止メンカ爲メ破壊シタル家屋  
 ノ事ニ付キ佛國ニ於テ小疑アル問題ニモ同一ナル  
 斷定ヲ下セリ○爰ニハ公正ニシテ且ツ注意シタル  
 規定ヲ採用セリ公正ナリト云フハ實際ニ於テ火勢  
 ハ破壊シタル家屋ノ場所ニ至ラスシテ鎮止セシヤ  
 否ヤヲ探究セサレハナリ是レ十分ナル證據ヲ以テ  
 豫定シ得ヘカラサルヲナレハ唯家屋ヲ破壊スルヲ  
 必要ナリト思ハレシヲ以テ足レリトス注意シタル  
 ト云フハ正當ニ此破壊ヲ命令スルヲ得ル者ハ地方

官署又ハ消防隊長(火消頭取)ノミナレハナリ否ヲサ  
 レハ則チ被保人共家屋ヨリハ償金ヲ得ルヲ喜ヒ火  
 足ノ線路ヲ斷絶スルヲ口實トシ其要用ナクシテ猥  
 リニ其家屋ヲ破壊スルノ畏アレハナリ

### 第八百五十一條 被保人ハ保險ヲ依頼スル際成ル可

ク丈ケ保險人ノ負擔ス可キ危險ノ大小輕重ニ影響  
 ヲ及ホシ得可キ情狀ヲ陳述ス可シ

此點ニ付キ錯誤又ハ惡意ニ出テタル總テノ黙止若  
 クハ齟齬ヲ保險人ニ於テ保險契約前發見セサルキ  
 ハ其黙止又ハ齟齬ハ其場合及ヒ輕重ニ從ヒ或ハ危



險賠償減額或ハ其保險契約無効ノ原由トナルモノトス

〔改正〕第二項 此點ニ付キ錯誤又ハ惡意ニ出テタル總テノ黙止若クハ齟齬ハ其情狀及ヒ場合ノ輕重ニ從ヒ或ハ既濟又ハ拂期後ノ保險料ヲ返還セスシテ保險ヲ無効ト爲シ或ハ過去將來共ニ保險料ヲ増加スル原由トナルモノトス

第三項 若シ災害後ニ至リテ其齟齬ヲ發見シ且保險人ニ於テ從來知ラサリシ危險ノ原由其災害ニ影響セシキハ保險人其賠償金ノ全部又ハ一部ノ支拂ヲ免ル可シ若シ又其原由ハ災害ニ影響セサリシモノナルキハ賠償額ノ中被保人ヨリ支拂フ可キ保險料ニ超過スル額ヲ減除ス可キモノトス

註解

第八百五十一條 本條以下五條ハ總テ被保人ノ義務ニ關スル者ニシテ且ツ既ニ保險契約ノ數箇ナル事故ニ付テ論シタル被保人ノ義務ニ追加スル者トス何人ニ限ラス一箇ノ危險ニ對シ保險セシメント欲スル者ハ保險人ノ負擔ス可キ責任ノ廣狹ヲ之レニ知ラシメ得可キ一切ノ事實參考手段ヲ供給ス可キ



ハ自然ノ事ト云フ可シ  
 故ニ雹下又ハ洪水ニ對スル收穫物ノ保險ニ關スル  
 事ハ被保人ヨリ其保險期限中自ラ爲サント欲スル  
 耕作ノ性質如何ヲ保險人へ陳述セサル可カラス而  
 シテ其災害ノ性質及ヒ原由ニ至テハ是レ全ク天然  
 ノ者ナルヲ以テ被保人ヨリ此點ニ付テハ毫モ陳述  
 スルコトアラス唯其保險セシメント欲スル田地ノ場  
 所何レニ在ルヤヲ精細ニ定メ置クヲ以テ十分トスル  
 火災ニ對スル保險ハ是ニ於テモ亦最モ重要ノ點ア  
 ル者トス即チ被保人ハ其保險セシメント欲スル物

件ノ性質及ヒ其物件ノ在ル場所ヲ保險人へ指示ス  
 可キノミナラス尙ホ自己又ハ隣家ノ工業若クハ職  
 業ニ原由シテ生スルコトアル可キ火災ノ原由ヲモ保  
 險人へ指示セサル可ラス蓋シ實際ニ於テ被保人ハ  
 此點ニ付重大ノ懈怠ヲ爲スノ憂ナカル可シ何トナ  
 レハ保險人其保險ヲ諾スルニ當リ將來自己ノ負擔  
 ニ關スル大体ノ事ニ付テハ一々被保人ヲ尋問ス可  
 キヲ以テナリ次ニ又保險人ハ自ラ若クハ使用人ヲ  
 シテ被保人又ハ其隣家ノ職業ヲ施行スル場所及ヒ  
 事情ノ摸樣ヲ調査セシム可キヲ以テナリ



然レモ法律ハ茲ニ被保人ニ於テ事實ヲ黙止シ又ハ其齟齬ヲ陳述シタルヲ想像シテ即チ其責罰ヲ示ス者トス蓋シ法律ハ事實ノ黙止又ハ齟齬ノ陳述ニ對シ佛蘭西商法(第三百四十八條)海上保險ニ付キ定メタルカ如キ何等ノ區別モナク總テ保險契約ヲ無効トセス實ニ其黙止又ハ齟齬ノ陳述ノ爲メ常ニ契約ヲ無効トスルハ過嚴ノ甚シキ者ト云フ可シ保險契約ノ無効ヲ以テ正當ノ者タラシムルニハ其黙止又ハ齟齬ノ陳述被保人ノ惡意ニ出テ且ツ其情重キ者タルヲ要ス可シ而シテ其情重キ者トハ他ナレ若

シ保險人ニ於テ事實ノ眞正ヲ知リタル時ハ其契約ヲ爲サ、リシ者ナラント認定シ得可キカ如キ性質ノ者タルト是ナリ加之其事實ノ眞正ハ被保人ヨリ陳述セサルニ於テハ保險人之ヲ容易ニ發見スルヲ能ハサリシ者ナルトヲ要ス可キナリ右ノ如ク保險契約ノ無効ハ常ニ宣告スルヲ得サル者ニシテ且ツ之レヲ宣告スルト否トノ情狀モ亦種々ナルヲ以テ法律上之レヲ豫定シ且ツ列記シ置クヲ得ス故ニ災害ノアリタル場合ニ於テ其契約ヲ無効トス可キヤ將タ單ニ賠償ヲ減額ス可キヤ如何ヲ宣告スル



ノ任ヲ裁判所ニ委テ置クハ至當ト云フ可シ  
 常ニ保險契約ヲ無効ノモノト爲サ、ル最終ノ理由  
 ハ他ナシ被保人ノ黙止又ハ齟齬ハ其惡意ニ出テタ  
 ルト否トナ問ハス屢々被保人ノ認知スル者ニシテ  
 之レニ拘ハラズ其保險料ヲ從來ノ儘又ハ多少増加  
 シテ收受スルヲ承諾シタルカ若クハ將來ニアル  
 可キ賠償額ヲ變更セシメタルキハ其契約ノ無効ヲ  
 防止ス可キハ勿論ナルヲ以テナリ  
 蓋シ本條ノ規則ニ據レハ總テ實際ノ困難ハ裁判所  
 ニ於テ裁決セラル可キモノナリ

第二項 此改正ヲ以テ爰ニ記入シタル區別ハ最モ  
 必要ナルモノニシテ若シ被保人災害前齟齬ヲ發見  
 セシキハ尙ホ其契約組成ノ際ニ在ルモノトシテ一  
 切ノヲ規定セサル可ラス即チ此場合ニ於テ被保  
 人或ハ全ク保險ヲ拒絕シ或ハ一層巨額ノ保險料ヲ  
 要求スルヲ得可シ蓋シ被保人ヨリ保險ヲ無効ニス  
 ルヲテ請求シテ之レヲ得タルキ其己ニ受收シタル  
 保險料ヲ返還セサルハ實ニ驚クニ堪ヘタルカ如シ  
 是レ併シナカラ被保人ノ過失ニ付テノ當然ナル責  
 罰タル可シ且ツ其齟齬ハ重大ニシテ保險無効ノ原



由ト爲スニ足ル可キモノナルヤ否ヤヲ決定スルハ  
 裁判所ニ於テ爲ス可キトナレハ格別其詐害ヲ恐ル  
 、ニ及ハサルナリ若シ又被保人ニ惡意ナキハ保  
 險人其申込ヲ査定セサリシノ怠慢ニ依リテ其過失  
 ハ屢々輕減セシモノト見做サル、ヲ得可シ○若シ  
 保險人只保險料ノ増額ヲ請求シ若シクハ之レヲ得  
 タルトハ其増額ハ未濟ノ保險料ニ於ケルト等シク  
 既濟ノ保險料ニモ及フ可キモノトス何トナレハ保  
 險人其意想外ニシテ其欲セサル所ノ一層巨大ナル  
 危險ヲ冒セシモノニシテ若シ其危險ヲ發見セサレ

ハ之レカ結果ヲ受ク可キモノナレハナリ○蓋シ右  
 ノ理由タル前記ノ場合ニ適用シ且既ニ受收シタル  
 保險料ヲ返還セサルノ原由ヲ完充シ又右ノ理由ハ  
 保險人ヨリ請求シテ得タル無効ノ場合ニモ適用ス  
 ルモノトス  
 今ヤ是レヨリハ災害後其申込ノ齟齬ヲ發見セシ  
 ヲ假定セシニ此場合ニ於テハ一ノ小區別ヲ爲サ、  
 ル可カラス即チ或ハ從來知レサリシ危險ノ原由其  
 危險ヲ引致シ又ハ加重シタルノ場合或ハ其原由毫  
 モ危險ニ影響セサルノ場合即チ是レナリ



最初ノ場合ニ於テハ或ハ賠償金全額ノ支拂ヲ拒絶シ或ハ場合ノ輕重ニ從ヒ只賠償金額ノ幾分ヲ減除ス可シ又次ノ場合ニ於テハ其約シタル賠償金ノ全額ヲ支拂ハサル可ラス然レモ此場合ニ於テハ危険ノ増加アリタルヲ以テ被保人一層巨額ノ保險料ヲ拂ハサル可ラサルモノナルカ故ニ其支拂フ可キ保險料ト己ニ支拂ヒタル保險料トノ差額ハ其受收ス可キ賠償金額ヨリ減除セラル可キモノトス己上ノ設例ノ過半ニ適用シ得可キ一ノ例證ヲ爰ニ舉示セン即チ被保人其室内ニ具ヘタルハ煉化石若

クハ石製ノ火爐ニ比スレハ常ニ火災ノ危険一層多キ鐵製煙筒ノ運用煖爐ナルトチ申込マサルノ場合是レナリ○蓋シ此危険ノ増加タル保險ニ關スル完全ナル障害ニアラスシテ只保險料増加ノ原由タルニ止マルモノナリ故ニ其災害前危険ヲ發見セシ場合ニ於テ契約ハ無効トラス又其火災ニシテ他ノ原由ヨリ起リタルモノナルキハ災害後危険ヲ發見シタルキト雖モ其危険ハ賠償金全部ノ支拂ヲ拒絶スル原由タラサルナリ然レモ若シ又火災ハ被保人ヨリ申込マサル右ノ火爐ヨリ起リタルモノナルキハ



被保人何等ノ賠償金ヲモ受收セサル可シ

第八百五十二條 保險時間中保險人ノ承諾ヲ得スシテ危險ヲ増加スルコトアル可キ變更ヲ其物件ニ加フルコトヲ得ス之ニ背クキハ前條同一ノ責罰ヲ受ク可キ者トス

火災ニ對シテ保險セシメタル物件動産ナルキハ保險契約ノ際其物件ノ存在シタル場所ヨリ火際ノ時燒失ヲ免カル、爲メノ外保險人ノ承諾ヲ得スシテ之ヲ他所ニ運轉シタルキハ災害ノ場合ニ於テ被保人其賠償ヲ受クルノ權利ヲ全ク失フ者トス

註解

第八百五十二條 確定シタル地位及ヒ性質廣狹共ニ豫定シタル危險ニ付キ保險契約ヲ爲シタルキハ被保人ニ於テ此危險ヲ變更シテ之ヲ増加スルヲ許サス

危險ニ付キ爲シ得ヘキ變更ハ太々衆多ナルヲ以テ法律ニ於テ之ヲ豫定スルヲ得ス唯一箇ノ變更ヲ揭示シタリ何トナレハ其特別ナル性質アルヲ以テナリ

若シ動産ヲ保險セシメタルキハ契約ニ於テハ其地



位ヲ明記シタルヘシ契約ノ際動産所在ノ家屋ハ同  
 シク其保險シタルト否トヲ問ハス此地位ハ保險者  
 ニ於テ承諾セシ若干ノ危険アルヘシ○若シ動産ヲ  
 運轉シ他ノ家屋恐クハ亦タ遠地ニ送致シタルハ  
 危険ノ變更アルハ人ノ理解スル所ナルヘシ○恐ク  
 ハ其危険増加セスト雖モ別異ナルモノニシテ前キ  
 ノ危険ニ比較シ輕重如何ヲ査定スルハ被保人ノ事  
 ニアヲサルナリ○故ニ被保人ハ運轉ノ免許ヲ求ム  
 ヘクシテ若シ運轉ノ後ニシテ免許ヲ得ル前ニ於テ  
 火災アリシハ其原因如何ト雖モ全ク償金ヲ請求

スルノ權利ヲ失スヘシ例ヘハ動産ヲ他ノ家屋ニ運  
 致シ而シテ其家屋ハ雷火ノ爲メ焼失セシトセン是  
 レ實ニ意外ノ天災ナリ然リ而シテ前ノ動産所在ノ  
 家屋ハ同様ニ燒火セサルヲ疑ナケレハ保險人ハ償  
 金ヲ拒絕スルヲ得ヘシ何トナレハ其承諾ナクシテ  
 危険ヲ變更セシモノナレハナリ

第八百五十三條

數箇年間ノ保險契約ヲ爲シタルハ  
 ハ其保險料ヲ被保人ノ住所ニ往請ス可シ但シ保險  
 契約書又ハ其後ノ追加書ヲ以テ保險人ノ住所若ク  
 ハ其他ノ場所ヘ保險料ヲ遞送ス可キヲ定メアル



キハ格別ナリトス

若シ保険料ヲ被保人ノ住所ニ往請ス可キモノナル  
 キハ其保険料ヲ辨濟セサルニ原由スル被保人ノ失  
 權ハ正式ヲ以テ被保人ヲ保險料ノ辨濟方遲滯ニ附  
 シタル後ニ非ラサレハ宣告ス可ラサルモノトス  
 若シ又保険料ヲ被保人ヨリ遞送ス可キ者ナルキハ  
 被保人之レヲ支拂フ可キ時期ニ其保険料ヲ辨濟セ  
 サルキハ當然保險ノ利益ヲ失フ者トス但シ保險契  
 約中之レニ反對ノ約定アルキハ格別ナリトス  
 右二箇何レノ場合ニ於テモ若シ保險人ニ於テ其時

期後ニ保険料ヲ收受シ且ツ保険料支拂ヒ時期ト之  
 レヲ收受シタル時期トノ間ニ保險ニ關スル災害ノ  
 アラサリシキハ被保人其失フタル權利ヲ回復スル  
 モントス

保險人ヨリ被保人ノ住所へ往キテ保険料ヲ請フ可  
 キ時ト雖モ被保人ハ其支拂ヒ期限前後ヲ問ハス保  
 險人ノ住所ニ於テ常ニ保険料ヲ辨濟スルコトヲ得可  
 シ

相互ノ保險契約ニ於テハ其社ノ約款ヲ以テ社員ノ  
 失權ヲ規定ス可シ其規定アラサルキハ普通法ニ從



フ可シ

註解

第八百五十三條 被保人ノ主タル義務ハ保險料又ハ約定シタル賦金ヲ辨濟スルニアリ  
 此義務ハ無論ノモノナレハ法律ハ之ヲ明記スルヲ要セサリシナリ然レモ期限ニ至リ辨濟ナキ場合ヲ豫定セサルヲ得ス○蓋シ期限後ニ於テ火災ノ到來シタル場合ニ於テハ過失アル被保人ハ何レノ時期ニ於テ償金ニ付キ其權利ヲ失スルヤヲ確知スルハ大ニ要用ナリトス

此邊ニ付キ法律ハ定料保險及ヒ相互保險ヲ區別セリ○相互保險ニ付テハ法律ハ會社ノ定款ニ依頼セリ此定款ハ概チ公正ニシテ且ツ寬宥ナルヘシ定料保險ニ付テハ法律ハ保險料ヲ拂フヘキ場所ニ付キ區別ヲ制立セリ是レ被保人ノ住所タルヲ得ヘク又ハ他ノ場合タルヲ得ヘシ若シ被保人ノ住所ニ於テ保險料ノ辨濟ヲ爲スヘキ時ハ保險料ヲ稱シテ<sup>○</sup>往請(往請ハ「ケリル」ヨリ來リ請求ノ意義ナリ)ト云フ<sup>ケラケル</sup>何トナレハ被保人ハ先方ヨリ保險料ヲ請求シ來ルニアラサレハ之ヲ辨濟セサルヲ得ヘシ若シ他所ニ



於テ辨濟ヲ爲スヘキ時ハ之ヲ稱シテ遞送ト云フ何  
トナレハ其辨濟ノ爲メ被保人ハ自ラ行キ又ハ其使  
ヲ遣スヲ要スレハナリ

此區別ハ遲延ノ過失アル被保人ノ失權上ニ非常ニ  
影響スヘシ○保險料往請ノ場合ニ於テハ保險人ヨ  
リ期限ノ日又ハ其後ニ於テ受取書ヲ差出シ而シテ  
保險人其辨濟ヲ得サリシニアラサレハ被保人其權  
利ヲ失フ可ラス○抑モ受取書ノ差出及ヒ辨濟ノ缺  
闕ハ適法即チ法律ノ所謂ル完全ナル法式ニ從ヒタ  
ル遲滞ニ因リ認定セララル、ヲ得ヘシ○此邊ニ付テ

ハ遲滞ノ通常ナル法式ヲ踐ムヘシ○佛國ニ於テハ  
是レ裁判所使吏ノ書面ナルヘシ日本ニ於テハ其他  
民事上ノ義務ニ於ケルカ如ク書記局官吏ノ書面ナ  
ルヘシ又タ費用ヲ避ケンカ爲メ被保人ヲシテ遲滞  
ヲ認知セシメ而シテ其失權ヲ承諾セシムルヲ得ヘ  
シ  
若シ保險料ハ(保險人ノ住所又ハ公私ノ財庫ニ)遞送  
スヘキ者ナルキハ被保人ハ期限ノ日ニ於テ受取書  
ヲ收メサレハ其過失タル明白ニシテ更ニ其遲滞ヲ  
認定スルノ要用ナシトス



法律ハ如何ニモ此邊ニ付キ通常義務者ヨリモ被保人ノ爲メニハ一層嚴格ナリトス然レモ此嚴格ニ付テハ一ノ理由アルコナリ何トナレハ被保人其義務ヲ盡サ、ル時ニ於テ保險者猶且ツ危險ノ責ヲ負擔スヘキコアラサレハナリ若シ被保人ハ唯其遲滯ノ利子ヲ辨濟スルノ責ニ止マリ保險人ハ災害ノ節償金ヲ辨濟スルノ危險ヲ負擔スルルハ雙方ノ間少シモ平均ナラサルヘシ

但シ此嚴格ニ付テハ二個ノ寬假アル可シ第一保險契約ヲ以テ之レヲ減輕スルヲ得可シ即チ猶豫時間

ノ如キ是レナリ第二保險人ニ於テ期限後隨意ニ保險料ヲ領受シ且ツ其間ニ災害ノアラサリシハ被保人其失フタル權利ヲ回復ス可シ而シテ是レ實際ニ屢アルコナリ何トナレハ若シ災害ナカリセハ保險人ハ被保人ノ失權ヲ申述スルノ利益アラサルヲ以テナリ

法律ハ被保人ニ於テ此失權ヲ申述スルコトヲ得スト明言セス是レ無論ノ事ナリ何トナレハ此失權ハ被保人保險料延滯ノ刑ナルヲ以テ自己ノ爲メ損害ナリト思料スル契約ヲ免脱スルノ手段ト爲スヲ得サ



レハナリ  
 之レニ反シ法律ハ保險料往請ノ事ト雖モ被保人ニ  
 於テ之レヲ保險人ニ遞送スルノ權利ヲ有スルモノ  
 ナリト説明ス可キモノト思料セリ何トナレハ被保  
 人ハ斯ク爲スニ付キ正當ノ利益ヲ有シ得可クシテ  
 保險人之レヲ拒絕スルノ利益ヲ有セサレハナリ例  
 々ハ被保人旅行スルニ垂ントシテ且ツ其旅行時間  
 ハ保險料ヲ拂フ可キ期限外ニ至ル可キモノト想像  
 センニ其宅ニ保險料受領ノ爲メ保險人ヨリ受領人  
 ヲ差遣スニ當リ其金額仕拂ヲ委任スル爲メ精確又

ハ確實ナル人ナキコアル可クシテ爲メニ失權ニ至  
 ルヲ畏ル可シ保險人ノ住所又ハ其辨濟ヲ受領スル  
 爲メ指定シアル他人ノ住所ニ至リ辨濟ヲ爲セハ其  
 失權ヲ免カル可キナリ  
 末項ハ相互ノ保險契約ニ關係セリ法律ハ失權ノ規  
 定ニ付テハ其社ノ約款ニ委任セリ若シ約款中ニ此  
 事ヲ説明セサリシハ普通法ニ復歸ス可シ即チ被  
 保人ニ於テ義務不執行ノ爲メ契約解除ノ方法ヲ以  
 テ其失權ヲ宣告ス可キモノトス

### 第八百五十四條 被保人ハ災害ノ接近シ若クハ發生



シタル際ニ保險契約ヲ以テ擔保シアル危難ヲ防止  
シ又ハ減少スル爲メ其身ニ及フ丈ケノ事ヲ自ラ盡  
シ又ハ他人ヲシテ盡サシムルヲ要ス但シ其費用  
ハ以下第何條ニ規定シアル如ク保險人ヨリ償還セ  
シムルヲ得可シ

註解

第八百五十四條 合意ハ善意ヲ以テ執行ス可キモノ  
ナリ是レ自然法ノ一元則ニシテ第三百五十條ニ揭  
載シタル所ナリ此元則ハ茲ニ一箇特別ノ適用ヲ受  
ケ即チ被保人若シ火災ノ發生ニ臨ミ保險契約ニ安

ンシテ火勢ノ延焼ヲ防止スル爲メ若クハ火中ヨリ  
保險物ヲ救ヒ出ス爲メ毫モ盡力セサリシキハ其行  
爲善意ニ缺ルモノト云フ可シ而シテ其身自カラ爲  
シ得サル事ハ他人ヲシテ之ヲ爲サシメサル可カラ  
ス况ンヤ消防人及ヒ公署ノ役員加之其他好意者ノ  
防火事業ニ抵抗スルニ於テヲヤ他ハ又被保人其際  
防火ノ爲メ負擔シタル費用ハ保險人ヨリ償還ス可  
シ蓋シ此還償ハ(後ニ見ル)保險人ノ負擔スル義務ノ  
一タル可キナリ  
又他ノ一方ニ付テ論スレハ保險人其保險場所内ニ



群衆ノ入ルヲ制止シタルトテ常ニ之カ過失トス  
可カラス何トナレハ人ノ群集ハ屢々防火事業ノ障  
碍ニシテ且屢次又物件ノ竊取及ヒ枉取ヲ容易ニシ  
得ルモノナレハナリ

蓋シ此點ハ尙ホ其他數箇ノ點ニ於ケル如ク裁判所  
ノ判定ニ委テタルモノトス

第八百五十五條 保險契約ヲ以テ擔保シアル災害ノ  
生シタル場合ニ於テハ被保人ヨリ精々短キ時間内  
ニ保險人ヘ其災害ノ外見又ハ推測ノ原由及ヒ其災  
害ニ關スル損害ノ知レタル多寡ヲ指示シテ其災害

ヲ告知ス可シ

其告知ハ常ニ災害所在地方ノ管廳ヘ最初ニ爲ス  
ヲ得可シ又保險契約ヲ以テ之レヲ定メタルキハ必  
ス最初ニ其告知ヲ該廳ヘ爲ス可キ者トス

註解

第八百五十五條 若シ被保人ニ於テ其火災ヲ保險人  
若クハ其地所轄ノ官署ヘ告知スルノ餘暇アルヤ否  
ヤ直ニ之ヲ其保險人若クハ官署ヘ告知セサルキハ  
自カラ其火災ヲ釀成シ又ハ之ヲ容易ニシタルモノ  
ナラントノ嫌疑ヲ受ク可シ○蓋シ被保人ヨリ其官



署へ告知ス可キハ雷ニ火災ノアルコノミナラス(但シ火災ハ人ノ告知ヲ待タスシテ屢々判明ノモノナリ)尙ホ之レニ關スル多分ノ原由及ヒ果効ニ在ルモノトス

若シ其告知ヲ延滞シタル場合ニ於テ被保人ヲ宥恕ス可キヤ否ヤヲ判定スルハ裁判所ノ任トス而シテ被保人其災害ノ爲メ若クハ其他ノ原由ニ依リ負傷シ又ハ疾病ニ罹リシキハ是レ其告知延滞ヲ宥恕ス可キモノナル可シ

第八百五十六條 若シ保險物ノ價額又ハ未必ノ賠償

額ヲ保險契約又ハ其後ノ約束ヲ以テ定メアラサルキハ其豫見シタル災害ノ際保險人ハ其災害ヨリ即時且ツ直接ニ生シタル現實損害ノ全キ賠償額ト被保人其災害ヲ豫防シ又ハ停止スル爲メ若クハ其保險物保全ノ爲メ正當ニ用ヒタル費額トヲ右被保人へ還償ス可キモノトス

註解

第八百五十六條 今ヤ法律ハ保險人ノ義務ヲ掲載ス  
○其實保險人ノ義務トハ畢竟被保人ニ對シテ保險契約ノ目的タル災害ヨリ生スル損害ヲ賠償スルノ



義務ヲ云フ

茲ニ吾人ノ論究ニ從事スル數條ノ目的ハ此義務ノ廣狹ヲ定メ且ツ此義務ヨリ生スル所ノ數多ノ區別ヲ確定セントスルニアリ其第一ノ區別ハ未必ノ損害ニ付キ災害前ニ於テ或ハ爲シ或ハ爲サ、ル見積價額ニ關スルモノナリ

本條ニ於テハ此見積價額ヲ爲サ、リシ場合ヲ想像ス○蓋シ此場合ハ稀ナル可シ○抑モ共同保險ニ關シテハ被保財産ノ見積ヲ怠リシコトナル可シ何トナレハ此價額ノ見積ヲ爲スニ付テハ二箇ノ利益ア

リテ即チ定料保險ニ於ケルカ如ク償金ノ規定ニ有利ナルノミナラス尙ホ其共同ノ賠償ヲ支拂フニ付團結中ノ各員ノ負擔高即チ賦金ヲ定ムル緊要ノ基礎トナル可ケレハナリ

又定料保險ニ關シテハ毫モ右價額ノ見積リヲ怠タルコトナル可シ何トナレハ見積價額ハ毎年ノ保險料ヲ定ムル基礎トナルモノニシテ概シテ此保險料ハ被保價額ニ割合シ例ヘハ百ニ付キ何程ト定メタルモノナリ、又償金ハ後文ニ於テ見ルカ如ク被保金額ヲ超過スルコト得ス



然レトモ法律ニハ價額ノ見積ヲ爲サバリシ場合ヲ豫定スルヲ要ス○此ノ如キ場合ニ於テハ被保人ニ賠償ヲ拂フ可キ保人ノ義務ノ廣狹ヲ定ムルニ付キ困難ナシト云フ可カラス抑モ雹災若クハ洪水ニ對スル收穫物ノ保險ニ關シテハ保人ハ其豫見シタル災害ニ因リ其收穫物ノ全部又ハ一部ノ滅失シタルキハ其滅失シタル物ノ價額ヲ負擔ス可シ是レ即チ災害ヨリ生シタル即時且直接ノ損害ナリ○儲テ其收穫物ハ或ハ未タ收穫期ニ達セサリシモノナルコトアリ此際ニハ或ハ此收

穫物ハ未タ著大ナル估價ヲ有セサルコトアリト雖モ其保險アリタルニ因リ乃チ偶生且未必ノ價額ト云ハンヨリ寧ロ確定ニシテ又有期ノ價額タリシト云フヘキナリ○故ニ收穫物ハ災難ナク成熟セシモノト想像シ以テ保人ハ其滅失セシ價額ヲ負擔スヘキナリ○然レトモ例ヘハ乾涸、虫害、颶風ノ如キ災害即チ保險契約中ニ含蓄セサル諸原由ヨリ生セシ滅失又ハ減價ハ保人ノ責メナキモノト爲スヘシ○然レトモ被保人ニ耕作費額ヲ支拂フコトナシ蓋シ是レ收穫ニ附シタル價額中ニ含蓄シタレハナリ



然レトモ收獲物ノ滅失ハ被保人ヲシテ其完全ノ奏功ニ關セシ特別義務ヲ盡ステ妨クルコトアリ而シテ其特別義務トハ商人ニ爲スヘキ供給即チ之レニ因テ被保人ハ見積リ得ヘキ利益ヲ有シタルヘク又此供給ヲ爲サ、ルキハ損害ノ賠償ヲ擔當スヘキモノ、如キ義務ヲ云フ此ノ如キ場合ニ於テハ被保人ニ責任ナカルヘシ何トナレハ是レ災害ノ即時且直接ノ結果ニアラサレハナリ而シテ此第一ノ設例即チ利益虧缺ノ場合ニ於テモ亦保險契約ハ獨リ眞實ノ滅失ニ對シテ擔保スルモノニシテ利益虧缺ニ對シ

テハ擔保スルモノニ非ストノ單純ノ理由アルヘケレハナリ

火災保險ニ付テハ稍困難ノ處アリトス

保險人ハ火災ニ依リ全然消滅シタル物件ノ價額ヲ辨濟スヘキハ勿論ナリ若シ其消滅一部ニ止マル片ハ損害ニ付キ償金ヲ負擔スヘシ然レモ是レ後段ニ論スル所ノ保險人ニ於テ破損シタル物件ヲ引取り而シテ之カ價額ヲ辨濟スヘキノ場合ニアラス保險人ハ同シク保防ノ費用ヲ辨濟スヘシ○法律ハ此點ニ付キ火災ヲ免カレシ物件ノ價額ノミニ保險



人ノ責任ヲ制限セス何トナレハ保險人ノ責任只火災ヲ免カレシ物件ノミニ止マルルハ被保人保防ノ費用ヲ負擔スルノ畏アルニ依リ保防ノ義務ヲ盡スニ當リ其身ヲ束縛スヘケレハナリ○保防ノ盡力ハ常ニ成功ヲ期シ難シ去レモ若シ被保人ニ於テ此事ヲ試ミサレハ其盡力ハ好結果ヲ得ヘキモノナリシヤ否ヲ知ル常ニ困難ニシテ屢之ヲ知ル能ハサルヘシ○保防ノ費用ヲ償還スルコトニ付テハ法律ハ唯一個ノ條件ヲ制立セリ其費用ハ「正當」即チ適理ニ用ヒタルヲ以テ足レリトス

法律ハ保險シタル物件保防ノ費額并ニ災害ノ結果ヲ豫防レ又ハ停止スル爲メ用ヒタル費額ヲ同視セリ第八百五十條ハ既ニ此費用ノ中ニ延焼ヲ防止セシ爲メ保險サレタル家屋ヲ破壊シタルノ費用ヲ算入シタリ

此外法律ハ保險人ノ責任ヲ物上損害ニ制限スルノ注意ヲ用ヒタリ是レ先ツ「愛玩ノ價額」タル償金ヲ除去スル爲メナリ是レ全ク人々ニ依リ變更スルモノニシテ裁判所ノ査定スルヲ得サルモノナリ且ツ又タ暫時ノ轉居、得意客ノ滅失、商業ノ停止等ノ弊害ヲ



除去スル爲メナリ○此末段ノ損害ハ○金<sup>○</sup>錢<sup>○</sup>上<sup>○</sup>查<sup>○</sup>定  
 シ得ヘキモノナルニ依リ物上ノ損害ト看做シ得ヘ  
 シト雖也(是レ爭議ス可カラサルニアラス)少クトモ  
 間接ニシテ且ツ遠隔ナリトス○但シ第八百三十八  
 條ニ豫定シタル如ク反對ノ合意アルキハ格別ナリ  
 トス

末段ニ臨ミ注目ヲ爲ス可キモノハ保險人ニ於テ火  
 災ノ償金ヲ負擔スルハ保險ヲ爲シタル物件ニ關ス  
 ル損害ノミニ限ルヲナリ○例ヘハ一家屋ノ保險ヲ  
 爲シ其中所在ノ動産ヲ保險セシメサリシトセンカ

若シ火災ニ依リ動産ノ全部又ハ一部消滅シタルハ  
 ハ保險人ハ之レカ爲メ毫モ賠償ノ責ニ任セス  
 賠償ノ責ヲ生スルニハ家屋ヲ保全スル爲メ動産ノ  
 全部又ハ一部ヲ隨意ニ委棄シタルヲ想像セサル  
 可ラス

例ヘハ家屋ノ中ニ保險ノ約束ナクシテ燃ヘ易キ性  
 質ノ物品アリシニ被保人ハ家屋ノ保防ヲ容易ニセ  
 ンカ爲メ火害ニ物品ヲ運出シ物品ノ全部又ハ一部  
 ハ爲メニ燒燼シテ家屋ノ全部又ハ一部ハ保全セラ  
 レシハ保險人ハ被保人ニ對シ得益ノ限度ニ應シ



此物品ノ燒失ヲ斟酌スルヲ公正ナリトス  
 且ツ其注目ス可キハ爰ニハ動産ノ委棄ハ有益ナリ  
 シヲテ想像スルヲ要ス若シ然ラスシテ物品ノ運出  
 ニ係ラス家屋燒失セシキハ保險人ハ被保人ニ對シ  
 若シ被保人物品ヲ家外ニ運出セサリシキハ物品ハ  
 家屋ト共ニ燒失ス可キカ故ニ家屋物品共燒失ノ原  
 因ハ此所爲ニアラスシテ其物品ニ付キ保險ヲ爲サ  
 ヲリシ火災ナリト返答スルヲ得可キナリ

### 第八百五十七條

若シ又其保險物ノ價額ヲ見積り置  
 キタルキハ以後其物件ノ價額増加スルト雖モ該物

件ノ全部滅失ノ際保險人ハ其見積價額外ノモノヲ  
 毫モ拂フニ及ハサルモノトス

若シ又以後其物件ノ價額減少シタルキハ保險人ハ  
 其災害ノ日ニ該物件ノ有シタル價額ノミヲ拂フ可  
 キモノトス

災害當時ニ存シタル物件ノ價額ヲ證明スルハ被保  
 人ノ任トス

其他賠償額ヲ請求ス可キ條件ニ付テモ亦同一ナリ  
 トス

註解



第八百五十七條 爰ニハ法律ハ災害前ニ保險シタル

物件ノ見積リ算用ヲ爲セシ場合ヲ想像セリ

此場合ハ定料保險ニ於テ最モ通常ニシテ且ツ最モ望マシキ場合ナリ又タ相互保險ニ於テハ密着<sup>〇</sup>シテ離レサルモノナリトハ予輩既ニ陳述シタリ此見積リ算用ハ法律ノ先ツ着手スル場合タル全部滅失ノ場合ニ於テモ被保人ノ權利ヲ確然一定シタルモノト見做ス可ラス

見積リ算用ハ過度ノ見積ヲ爲シ災害ノ爲メ利益ヲ得可キ被保人ノ惡意ニ因リ若クハ善意ニテ總テ所

有主ノ自己ニ所屬スル物件ノ價額及ヒ資格ヲ自然増加スルノ傾向ニ因リ過度ナリシコアルヲ得可シレ如何ニモ被保人ハ善意ナリト想像ス可クシテ(是レ法律上ノ推測ナリ)過度ノ見積ヲ爲セハ之ニ准シ保險料又ハ賦金ノ増加ス可キニ依リ被保人過度ノ見積ヲ爲サ、ル可シ且ツ保險人ハ此見積リ算用ヲ檢査スルヲ得可クシテ若シ其見積ヲ減少セシメサレハ之ヲ精確ナリトハ認定セシモノナリト謂フヲ得可シ然レトモ保險人ニ於テ精細ナル檢閲ヲ爲サ、ルヲ屢々之レアリトス此檢閲ハ鑑定ノ費用ヲ生ス



可クシテ此費用ヲ避ケント欲スルナリ何ントナレ  
 ハ之レカ爲メ災害ノ場合ニ於テハ更ニ鑑定ヲ爲ス  
 一ヲ免カレサレハナリ且ツ之レカ爲メ契約ノ時双  
 方ノ合意ヲ妨止ス可キ爭議ヲ生スルヲ得可シ而シ  
 テ保險人ハ成ル可ク數多ノ保險契約ヲ爲スノ利益  
 ナ有スルナリ

吾輩前ニ論シタル如ク見積リ算用ハ契約ノ時精適  
 ナリシト雖モ災害ノ後新タニ評價ヲ爲ス一ヲ免カ  
 レス是レ物件ノ價額増加シタルキハ保險人其賠償  
 ナ増加ス可キカ爲メニアラスシテ價額減少シタル

キハ其賠償ヲ減少ス可キカ爲メナリ○寔ニ保險契  
 約ハ決シテ得利ノ根源トナル可ラス又タ無償ノ利  
 益ヲ保全ス可ラス○若シ保險シタル物件ノ價額意  
 外ニ増加シテ且ツ其増加ハ無償ノモノナルコ災害  
 ノ際被保人ニ其増價額ヲ仕拂フキハ右ノ禁制ニ觸  
 ル、モノナリ○猶ホ又其物件ノ價額減少シタルニ  
 係ラス被保人最初ノ見積リ額ヲ受取ルキモ同段ナ  
 リ若シ然ラサレハ被保人ハ保險ノ目的タル災害ニ  
 原由セサル損失ノ賠償ヲ受クルニ至ル可キナリ  
 故ニ災害ノ際其物件ニ存シタル價額ニ非サレハ被



保人へ拂フニ及ハサルモノトス  
 蓋シ災害ノ後ニ於テ更ニ其物件ノ價額ヲ見積ルコト  
 難カル可キハ明瞭ナリ何ントナレハ茲ニ於テ其物  
 件全ク滅失シ若クハ多小重大ニ損失シタルモノト  
 想像スルヲ以テナリ然レトモ法律上其供證ノ任ヲ  
 被保人ニ歸セリ而シテ被保人ノ權利ニ關スル其他  
 ノ條件ニシテ假令保險契約ヲ以テ豫見シタル災害  
 ノ到着ノミナラス尙ホ其際保險物ヲ自ラ取扱フタ  
 ル情况ノ如キモノモ亦等シク自ラ證明セサル可カ  
 ラス就中火災ニ對シテ保險セシメタル物件動産ニ

シテ其燼殘物ノアラサルニ被保人其燒失シタル  
 家屋内ニ在リタルコトヲ證明ス可キモノナル可シ  
 斯ノ如キ證據ヲ掲クルハ常ニ容易ナラサルモノナ  
 ルコトハ敢テ疑ヲ容レサルナリ然レモ亦被保人ヲシ  
 テ其反對ヲ證明セシムルコトハ尙ホ一層難カル可シ  
 且ツ又裁判所ハ茲ニ於テ常ニ現場ノ模様ニ憑據シ  
 タル證據及ヒ事實ノ推測ヲ許容スルコトヲ得ルモノ  
 ナルヲ以テ只被保人ノ善意疑ハシキ者ニ對スルニ  
 非サレハ嚴重ナラサル可キモノトス

第八百五十八條 保險物ノ一部分滅失シタル場合ニ



於テハ保險人前條ノ區別ニ從ヒ豫約ノ賠償額又ハ其物件ノ現時價額ノ内右滅失ニ應分シタルモノ、外負擔スルニ及ハサルモノトス

若シ又被保人第八百四十三條ニ記載シタル如ク其物件ノ一部分ヲ保險セシメ他ノ一部分ニ付テハ自カラ保險シタルキハ保險人ト共ニ又自カラ其危險ノ一部分ヲ負擔スルモノトス

然レモ一家屋ノ住人ニ於テ其家屋所有者又ハ隣人ノ賠償額要求ヲ保險セシメタル場合ニ於テハ被保人即チ其住人右保險人ヲシテ豫約セシメタル賠償

ノ全額ヲ超過ス可キモノニ付テニ非サレハ負擔ス可キモノニ非ス

註解

第八百五十八條 本條ニ於テハ物件ノ滅失一部分ノモノト想像シタリ茲ニ於テ其賠償額ヲ豫シメ定メアラサリシキハ其滅失ノ爲メ被保人ノ受ケタル損害高如何程ナルヤヲ單ニ探求シ以テ其高キ之レニ附與スルノミナリ若シ又其賠償額ヲ豫定シアリタルキハ是レ賠償ノ最高額ニシテ之レヲ超過スルコトヲ許サス而シテ又是レ常ニ附與ス可キ賠償ノ最下



額ニモアラス時トシテハ其物件現時ノ價額カ豫定ノ賠償額ヨリ以下ノトモアル可キヲ以テ其價額ヲ常ニ算定セサル可カラス而シテ又茲ニハ物件全部ノ滅失ニ關セスシテ只タ其一部分ノ滅失ニ關スルモノナルヲ以テ被保人ニ附與ス可キ賠償額モ亦タ右ノ如ク算定シタル全價額ノ一部分タルニ過キサ  
ルナリ

然レトモ法律ハ被保人ノ權利ノ制限ニ關スル他ノ原由ヲ追想ス此場合ハ償金ノ確定ノ如キ最初物件ニ附シタル評價額カ物件ノ眞ノ價額ヨリ低價ナリ

シ場合ニシテ通語ニ因レハ被保人ハ自己固有ノ保險人トシテ見做サレタル場合ナリ○此場合ニ於テハ物件全滅シタルモ亦タ唯一部ノミ滅失シタルモ被保人ハ完全ノ賠償ヲ受クルモノニ非ス故ニ例ヘハ千圓ノ價アル家屋ニ八百圓丈ケノ保險アリシハ被保人ハ千圓ノ五分一即チ二百圓ニ付キ自己固有ノ保險人ナリ○若シ又物件ノ全部滅盡セシハ全價額ノ五分ノ四即チ八百圓丈ケノ償金ヲ受クルニ過キス、若シ又物件ノ一部滅失シテ其滅失ノ見積價額四百圓ナルハ被保人ハ四百圓ノ五



分一即チ八十圓ヲ差引キ残り三百二十圓ヲ受ルニ過キス何トナレハ被保人ハ其五分一ニ付キ自己固有ノ保險人ナレハナリ  
 法律ハ一箇ノ例外規則ヲ定メ以テ本條ノ條例ヲ終リタリ此例外規則ハ歐洲ニ於テ採用スル所ニシテ其判決例亦之レヲ舉示セリ

附言 第八百三十七條ニ第八十八條ト揭示ス可キニ之レヲ掲ケスシテ第四十八條ト載セタルハ是レ書損ニ出テタルモノナリ然レトモ此過失ヲ改ムルハ容易ナリトス

吾人ハ第八百三十七條及ヒ第八百三十八條ニ於テ家借ノ危險及ヒ隣人ノ要償ノ名稱ヲ附シタル特別ノ危險ニ對スル二箇ノ保險契約アルヲ見タリ而シテ家借ノ危險ハ借家人又ハ入額所得者カ出火ノ過失アリトノ推測ノ果効ニ因リ其所有者ニ對シテ負擔スル責任ニ適用ス(第八十八條(附言)及ヒ第一百五十二條ヲ看ヨ)又隣人ノ要償ニ關スル危險ハ一切家屋ノ住居人(所有者、借家人又ハ入額所得者)火ノ移リタル隣家ノ住居人ニ對シテ負擔スル所ノ責任ニ適用ス○然レトモ茲ニハ毫モ過失ノ推測ナシ即チ過失



ハ直チニ尋常ノ方法ニ因テ證明ス可シ○火災ニ關シタル此特別危險ヲ目的トシタル保險契約ハ屢々其他ノ保險契約ニ於ケルカ如ク又其他ノ保險契約ヨリモ或ハ一層儘ニ償金タルヘキ擔保額ノ確定ヲ含蓄ス可シ○勿論此擔保額ハ保險人ヨリ支拂フ可キ最高額ナルヤ明カナリ○然レトモ茲ニ特別ナルトハ即チ損害(茲ニハ賠償要求ヲ指ス)カ嘗テ定メアル償金ヲ超過スヘキキニ非サレハ被保人ハ自己固有ノ保險人トシテ見做サレサルト是レナリ實ニ此場合ニ於テハ危險ノ廣狹、要償ノ多寡殊更隣人ノ要償ノ多寡ヲ豫メ見積リ置クヲ得可シ故ニ保險人ハ被保人カ所有者又ハ隣人ニ支拂フヘキ正當ノ金額又ハ被保人カ保險人ニ代リテ支拂フ所ノ金額ヲ被保人ニ還償スルヲ當然ニシテ又適正ノトトス但シ此還償ノ高ハ償金トシテ定メアル金額迄ニ止マルヘシ

### 第八百五十九條 若シ保險動產物ノ内全ク災害ヲ免

レタルモノアルキハ保險人自己ノ隨意ヲ以テ或ハ其全部滅失シタルキニ於ケル如ク賠償全額ヲ支拂ヒ其殘物ヲ引取り或ハ之ヲ被保人ニ渡シ賠償額ヨ



リ其物ノ價額ヲ減除スルヲ得可シ然レモ單ニ破  
 損シタル物件ニ至テハ保險人之ヲ引取り又ハ自己  
 ノ利益ニ之ヲ賣却セシムルヲ得可シ  
 若シ又建物ニ關スルキハ保險人其全ク残りタル建  
 物一体ノ價額ヲ賠償ヨリ常ニ減除ス可シ又單ニ火  
 ノ達シタル建物ニ付テハ保險人自己ノ隨意ヲ以テ  
 或ハ自費ニテ之ヲ修繕シ或ハ其材料ヲ引取り之カ  
 價額ヲ辨償スルヲ得可シ  
 右二箇何レノ場合ニ於テモ物件保防ノ費用ハ保險  
 人ノ負擔タル可シ

## 註解

第八百五十九條 法律ハ詳細ニ涉レル二三ノ條例ニ  
 因リ尙ホ引續キテ償金ノ規定方法及ヒ之レヨリ生  
 スル二三ノ結果ヲ掲載ス  
 其レ被保物件ノ全滅セスシテ唯其一部ノ滅失スル  
 一往々ニシテ之レアル所ナリ又時トシテハ或ル物  
 件ハ全ク存スルヲアリ全ク毀却スルヲアリ或ハ又  
 唯多少ノ損害ヲ蒙ムルニ止マルヲアルヘシ○動産  
 物ニ關シテハ此三箇ノ結果アルヲ了解シ易ク又數  
 體ノ建物ヲ組成スル不動産ニ關シテ其一ハ全ク火



災ヲ免カレ一ハ全ク火災ニ罹リ又一ハ火ノ罹リテ  
 幾分カ其價ヒテ減少シタルヲアルヘク此等ノ場合  
 ニ於テモ亦右三箇ノ結果ヲ想像スルニ困難アルコ  
 ナシ  
 然レトモ動産ト不動産トニ付キ同一ノ論決ヲ爲ス  
 難シ

法律ハ動産ヨリ論究シ始メタリ即チ若シ保人ニ  
 於テ其滅失物ノ割合ノ見積リ及ヒ其全存スルト價  
 ヒノ減少シタルニ過キササル物トチ問ハス其殘存ス  
 ル物件ノ割合上ノ見積リニ付キ出費ト爭議トチ避

ケント欲スルルハ賠償全額ヲ支拂イ以テ其殘存物  
 チ引取ルコトヲ得可シ然レトモ又保人ハ其全ク火  
 災ヲ免カレタル物件ヲ被保人ノ掌中ニ置キテ賠償  
 全額ヨリ其割合上ノ一部分ヲ引去ルコトヲ得可シ  
 又建物ニ關スルルハ火ノ罹リタル建物ヲ以テ保  
 人ノ所有權ニ歸セシムルコトヲ認許スルヲ得ス又假  
 令ヒ其建物ハ土地ノ所有者ニ屬セサルルハ土地表面  
 使用權アル場合ニ於テモ亦右ニ同シ故ニ建物ノ一  
 体又ハ數体カ全ク火災ヲ免カレタルルハ其價額ヲ  
 償金ヨリ減除ス可キナリ○最モ保險證書中特ニ建



物ノ各体ノ價額ヲ見積リ置キタルヲ往々之レアル  
 ヘキカ故ニ乃チ算定ノ方法ハ容易ナリト云フ可シ  
 若シ又建物ノ一体ニ火ノ罹リテ其一部毀損シタル  
 カ又ハ損害ヲ蒙リタルキハ保險人ハ自己ノ隨意ヲ  
 以テ或ハ自費ニテ之レヲ修繕シ以テ最初ノ形狀ニ  
 復セシメ(但シ此場合ニ於テハ別段償金ノ支拂ヲ要  
 セス)或ハ其殘存スル材料ヲ引取り以テ此建物一体  
 ニ關スル償金ヲ拂フヲ得可シ

此ノ如ク其儘修繕スルヲニ關シテハ法律ハ之レヲ  
 以テ全部ノ滅盡ノ場合ニ於ケルカ如ク保險人ノ權  
 利ナリト明言セス何トナレハ保險證書中ニ此旨ヲ  
 貯存セシキニ非サレハ保險人此權利ヲ有セサレハ  
 ナリ○實ニ此事ハ爭議ノ避ク可ラサル理由トナル  
 一往々ニシテ是レアル可シ○其故何トナルニ既ニ  
 建物ノ全滅シタルキハ其火災前ノ形狀ヲ慥ニ知了  
 スルヲ難ク即チ材料ノ本質、場所ノ模様及ヒ建物ノ  
 高低ハ概チ不十分ナル證據又ハ人證ニ因ルニ非サ  
 レハ證明セラレサル可ケレハナリ○加之火災ニ罹  
 リタル建物ハ多少舊ク又更ニ修繕シタル建物ハ新  
 シキカ故ニ是レ保險ハ利益ノ原因トナル可カラス



トノ原則ニ反スルモノナリ  
 之レニ反シテ建物ノ一部ノミ滅失シタルキハ火災  
 前ノ建物ノ措置及ヒ材料ノ本質ノ如何ヲ知了シ得  
 ルヲ往々ニシテ之レアリ故ニ茲ニハ其修復セシ部  
 分ノ新<sup>〇</sup>規<sup>〇</sup>ノ有<sup>〇</sup>様<sup>〇</sup>ニ關スル難問ノ存スルニ過キスト  
 雖モ常ニ保險人ハ撰擇權(隨意)アル者ナレハ乃チ茲  
 ニハ重大ナル不都合ヲ生セサル可シ  
 保全ノ費用ノ<sup>〇</sup>ニ關シテハ更ニ茲ニ論究セサル可  
 シ而シテ法律ニ之レヲ掲ケタルハ是レ蓋シ保險人  
 カ被保人ニ委ヌル費用ニ關シテ疑問ヲ生スル者ア

ル可ケレハナリ

第八百六十條 一家屋ニ備ヒ付ケアル一切動産ノ保  
 險ハ現有金圓若クハ債主權證又ハ所有權證ヲ包含  
 セサルモノトス  
 著書草稿及ヒ其他査定シ得可キ估價ヲ有セサル物  
 件モ亦其保險中ニ包含セサルモノトス

註解

第八百六十條 法律ハ爰ニ困難及ヒ詐偽ノ重要ナル  
 一源ヲ防クノ注意ヲ用ヒタリ  
 先ツ困難ヲ舉ケン例ヘハ現有金圓ヲ保險セシメ償



金ノ爲メ其額ヲ豫定セサルハ災害ノ節家屋ノ中ニ幾許ノ金額アリシヤヲ知ルノ困難ナル可シ若シ債主權又ハ所有權ノ證書ニ關スルハ其本主ノ爲メ新證書ヲ得ルノ成否如何ニ付キ困難ナル區別ヲ爲スヲ要ス可シ又タ著書草稿ニ付テモ同段ナリ此草稿ハ一身上重大ナル利益アル可シト雖モ之レヲ保全セシモ或ハ買受人ナカル可キニ依リ金錢上査定シ得可キ價額ヲ有セサルナリ償金ノ額豫定シタルハニ於テモ此種ノ物件ニ密着シタル困難猶ホ尠シトセス何トナレハ其物件ヲ保

全シタルハ償金上ヨリ幾許ノ減少ヲ爲ス可キヤヲ知ル可カラサレハナリ○去レハ償金ノ額豫定セサルハ其物件ヲ保全スルヲ得サリシハニ於テ評價ノ困難ヲ生ス可シ之ニ反シ償金ノ額豫定シタルハ其物件ヲ保全シタルハニ於テ之カ評價ヲ爲スノ要用アル可シ且ツ被保人ニ於テ惡意ヲ有スルノ危険アリ何トナレハ被保人ノ爲メ金圓證書草稿ヲ保全スルハ容易ナル可クシテ此事實ヲ被保人ニ知ラシメス償金ノ額豫定セサル場合ニ於テハ其物件ノ(接近ノ)價額ヲ



拂ハシメ又タ反對ノ場合ニ於テハ其物件ノ價額ニ付キ減少ヲ爲サ、ル可キヲ以テナリ

法律ニ於テ明言セスト雖モ特別ノ契約ヲ以テ此保險ヲ約定スルヲ得ルハ無論ノ事ナリ況シテ保險人ニ於テ危險損毛ヲ擔當スレハ猶更然ル可キナリ此場合ニ於テハ保險人ハ必要ナル記載并ニ評價ヲ爲サシムルノ注意ヲ用ユ可シ

法律ハ重寶ナル飾物及ヒ物件ニ付テハ規定スル所ナシ何トナレハ右物件ニ付キ保險ノ除去ハ何レノ限界ニ止マル可キヤヲ知ルヲ太々困難ナレハナリ

是レ契約者ニ於テ此事ヲ説明ス可キナリ○佛國及ヒ英國ニ於テハ此點ニ付キ合意ハ當ニ十分ナル注意ヲ用ユルナリ

第八百六十一條 災害ノ賠償ヲ支拂フタル保險人ハ其災害ノ責ニ任スルコトアル可キ借家人隣人及ヒ其他ノ人ニ對シテ被保人ノ有スル要償權及ヒ其訴權ニ代位スルモノトス

註解

第八百六十一條 借家人ノ所有主ニ對スルノ責任及ヒ一般住居人ノ自身ニ負擔ス可キ火災ニ罹リタル



隣人ニ對スルノ責任ハ數回既ニ記載シタリ○此二種(家借危険及ヒ隣人ノ要償)ノ危険ハ權利者ニ於テモ又々義務者ニ於テモ保險契約ノ目的ト爲ステ得可シ○所有主其家屋ヲ保險セシムルハ意外又ハ人力ノ及ハサル火災ノ原因ニ對シ自己ヲ保安シ且ツ同シク其借家人ノ過失(借屋ニ於テ發火シタルハ反對ノ證據アル迄法律上推測シタル過失)并ニ鄰人ノ過失(直接ニ證明ス可キ過失)ニ對シ保險セシムルモノナリ○借家人ニ於テ借家ヲ保險セシムルハ殊ニ所有主ノ訴權并ニ鄰人ノ訴權ニ對シ其保安

ヲ謀ルモノナリ(第八百三十八條)

本條ハ所有主ニ於テ約シタル保險契約及ヒ借家人又ハ鄰人ノ責メニ歸ス可キ火災ノ原因ヲ想像セリ保險人其約束シタル償金ヲ支拂フトキハ法律上被保人ノ地位ニ代リ過失アル本人ニ對シ訟求ヲ爲スヲ得可シ

佛國ニ於テハ右場合ヲ以テ法律上ノ代位ノ場合ト爲スハ困難ナリトス何ントナレハ此ノ法律上ノ代位ノ場合ハ第一千二百五十條ニ制限シテ確定シアリテ保險人ノ爲メ引用ス可キ唯一ノ項タル第三項ハ



斯ノ場合ニ施行ス可シト思ハレヌ是レ則チ日本草  
 案ノ第五百四條第一項ト同一ナル場合ナリ實ニ保  
 險人ハ「他人ト共ニ及ヒ他人ノ爲メニ(爰ニハ火災ノ  
 過失人)義務ヲ擔當スト云フヲ得ヌ  
 故ニ佛國ニ於テハ保險契約ノ既又ハ遅クトモ保險  
 人ニ於テ償金ヲ辨濟スルルニ合意上ノ代位ヲ約束  
 ス可キナリ

然レモ佛國法典第千二百五十條第三項及ヒ日本草  
 案第五百四條第一項ヲ以テ制定シ得サル所ハ特別  
 ナル一條ヲ設ケ制定スルヲ得ヘシ是レ則チ本條ヲ

設クル所以ナリ上列記シタルニケ條ハ一般ナル總  
 則ナレハ法律上ノ代位ノ特別ナル場合ヲ妨グルモ  
 ノニアラス而シテ保險ノ事項ハ最モ特別ニシテ最  
 モ普通法ニ遠リタル事項ノ一ナルヲ明白ナルモノ  
 ナリ

或ハ法律上ノ代位ニマテ至ラヌシテ被保人ヨリ隨  
 意即チ合意上ノ代位ヲ保險人ニ附與セサル以上ハ  
 被保人ニ對シ辨濟ヲ拒絕スルノ權ヲ保險人ニ與フ  
 ルヲ得ヘシ然レモ是レ無益ニ中途ニ止マルモノナ  
 リ保險人斯ク合意上ノ代位ヲ要求スルヲ得ルハ其



正理ニ適スルヲ以テナリ去レハ法律ハ契約者ノ爲  
メ不用ナル法式ヲ廢シテ直チニ代位ノ權ヲ與フル  
ヲ簡單ナリトス

且ツ若シ然ラサレハ不都合ナル結果ノ生スルヲア  
ルヘシ例ヘハ保險上ニ於テ合意上ノ代位ヲ要求ス  
ルヲ失念シ辨濟ヲ爲シ被保人ノ損害ヲ償ヒシト  
想像セン爲メニ利益ヲ得ルハ過失アル借家人又ハ  
隣人ナリ何トナレハ被保人ニ於テハ右借家人又ハ  
隣人ヨリ再ヒ損害ノ全額ヲ償還セシムルヲ得サル  
ヲ明白ナレハナリ

又他ノ一方ヨリ論シテモ被保人ヨリ右ノ諸人ニ對  
シ豫メ訟求ヲ爲シ其訟求無効ナル迄ハ保險人其償  
金ノ支拂ヲ拒絕スルヲ得ヘキニアラス若シ之ヲ拒  
絶スルキハ保險人ハ右諸人ノ保證人タルノ資格ヲ  
主張スルモノナリ然ルニ保險人其義務ヲ負擔スル  
ハ自己ノ名義ニ原ツキ保險契約ニ依ルモノニシテ  
他人ノ保證人タルカ故ニアラス蓋シ火災ハ何人ノ  
責任ニモ歸スルヲ得サルヲ屢々ナリ  
斯ニ制立シタル法律上ノ代位ハ總テ右等ノ困難ヲ  
妨止スルナリ保險人ハ被保人ノ損害ヲ辨償シタル



上ハ總テ火災ニ原因シタル訴權ニ付キ被保人ヲ代位スルヲ得ヘシ○保險人ノ危險ハ之カ爲メ尠少ナレハ隨テ保險料ハ一般ニ少額ナルヘキナリ

佛國ニ於テハ借家人ニ對シテ制立シタル過失ノ推測ハ同シク保險人ニ於テ申述スルヲ得ヘキヤ否ニ付テハ疑アリトス是レ讓渡ス可カラス又々轉移ス可カラサル所有主ノ特權ナリト云フ者アリ○去レテ此ニ不可讓渡ヲ唱フルハ道理上又々法律ノ總則上ヨリ命スルモノニアラス何トナレハ一人ノ爲メ其資格ニ由リ權利ノ生スルヲ屢々之レアリ去レヒ一

且權利ノ生シタル上ハ此權利ヲ轉移スルヲ得ヘクシテ且ツ此轉移ハ屢々權利ヲ利用スルノ一ノ方法ナリトス○賣主ノ特權、幼人ニ關スル法律上ノ不動產抵當ハ法律ニ依リ此諸人ノ爲メニ制立セララル、ナリ然レモ債主權ト共ニ代位又ハ轉移ニ依リ讓渡スルヲ得ルナリ

第八百六十二條 保險物ノ全体又ハ其當時價額ノ半ハ以上豫見シタル災害ニ因リ若クハ其他意外又ハ抗拒ス可カラサル原由ニ因リ滅失シタルモ假令モ其物件ヲ最初ノ狀態ニ復シタルモ雖モ保險ハ



將來止息スルモノトス

註解

第八百六十二條 若シ保險シタル物件全ク消滅シタル時ハ保險契約ハ其期限或ハ猶ホ長久ナリト雖モ將來ノ爲メ息止ス故ニ被保人ハ其後保險料ヲ拂フニ及ハス若シ相互保險ノ團結ナルルハ被保人ハ其他ノ災害ヲ分擔スルニ及ハス

若シ破壊シタル物件其舊ニ復スレハ保險契約ノ保安スル限りニアラス

若シ又タ滅失過半ナルルハ保險契約ハ最早其殘物

ヲ保安セス

若シ像定シタル災害ヨリ他ノ原因ニ依リ物件過半消滅シタルルハ同段ナリ保險料ノ支拂ハ其原由ナキモノニシテ若シ物件其舊ニ復スルルハ最早既ニ保險シタル物件ト同一物ニアサルナリ

第三節 生命保險

總論

此特種ノ保險ハ前己ニ示指ミタル所ニシテ奏西諸國ニ於テ慣習上名ケテ（生命ニ關スル保險 (life insurance)）アツシユラシス、シユル、ラヒイト稱スルモノナリ然レトモ此名稱タル最モ明確ナ



ル意義ヲ示スモノニアラス○蓋シ前ノ如ク稱スルヨリハ寧ロ「死去ニ對スル」保險ト稱スルヲ以テ優レリトス尤モ是ノ如ク名稱シタリトテ右保險ヲ以テ死去ヲ防止スルノ云ヒニアラサルハ勿論又タ他ノ名稱トテモ右保險ニテ「生命ヲ擔保スル」ノ言ニハアラサルナリ然レトモ右ノ名稱タル此保險ニ依リテ或ル人ノ死去セシカ爲メ他ノ人ノ受ク可キ損害ヲ擔保スルノ云ヒタル可キナリ

故ニ此ノ保險ノ目的ハ其第一ノ箇條ニ叙述セルカ如ク被保者ノ死去ヨリ生ス可キ損害ヲ補償スル爲

メ保險者ヲシテ被保者ノ相續人又ハ其示指シタル或人ニ資本金又ハ年金ニ於ケルノ金額ヲ支拂ハシムルニ在リ○但シ右保險ノ契約タル保險者ト被保者トノ間ニハ無償名義ノモノナラス何トナレハ右ノ保險契約ニ於テハ被保者或ハ一時ニ若干ノ金圓ヲ拂ヒ或ハ火災其他ノ陸上災害ニ關スル保險ニ於ケルト等シク保險料ト稱スル概テ年極メナル定期ノ拂ヒノ若干ノ金圓ヲ拂ヒ込マサル可ラサルモノナレハナリ

此事項ニ關シ吾人ハ爰ニ生命保險ニ於テハ海上ノ



死去ヲ想像セサルカ故ニ該保險ハ陸上保險ニ屬ス  
 可キモノニシテ海上保險ニ屬スルモノニアラサル  
 ヲチ再說ス可シ○故ニ縱令ヒ例外ヲ以テ該保險ニ  
 於テ海上ノ死去ヲ豫定シタルト雖中長程航海ニ於  
 テ其危險ノ超過ヲ補フ爲メ(補足保險料ト稱スル)保  
 險料ノ補足額ヲ拂フタルト雖モ該保險ニハ陸上  
 保險ノ名義ヲ附セサル可ラス即チ是ノ如キ場合ニ  
 於テハ常ニ己下ノ諸規則ヲ適用ス可キモノニシテ  
 決シテ海上保險ニ關シタル諸規則ヲ適用ス可キモ  
 ノニアラサルナリ

彼生命保險ハ英國ニテ實際多ク行ハル、所ニシテ  
 佛國ニ於テハ未タ實際洽ク行ハレサルモノナリト  
 雖モ輒近ニ於テハ漸次ニ擴張スルノ傾向アル所ナ  
 リ○蓋シ日本ノ慣習中ニ該保險ヲ引致スルニ多少  
 ノ困難アルハ疑ナシ何トナレハ日本ニ於テハ該保  
 險ハ航海ノ危險ニ對スル保險(海上保險)火災ニ對ス  
 ル保險ノ如ク其實益未タ人心ニ感セサル所ナレハ  
 ナリ  
 故ニ該保險ノ實益ヲ簡單ニ爰ニ説明スルハ最モ共  
 宜シキヲ得タルモノナリ



一家長其生計及ヒ家族ノ生計ヲ充分ニスルニ其入額ノミニテ充分ノ元資ヲ有セス其工業、勤勞、職務ニ依リテ得ル所ノ金圓ヲ以テ僅カニ其欠乏ヲ補フコト屢々アル可ク又時トシテ或ハ又最モ屢々右ノ勤勞、職務ヨリ獲タル所ノミヲ以テ一家ノ生計ヲ營ミ家長ノ死去セシカ爲メ其家族困難ニ陥リ又或ハ恐ラクハ貧苦ニ迫ルカ如キコトアル可シ

即チ生命保險ハ一家長タル者其死後其近親、其婦、其兒又ハ其尊族親ニ最モ巨額ナル元資又ハ畢生間ノ年金ヲ遺留スルニハ極メテ簡便ニシテ且ツ概テ費

用僅少ナル一良方法タル可シ何トナレハ被保者此利益ヲ確受スル爲メコトハ年々其入額、月俸、給金ノ一少部分ヲ支出シテ足ル可ケレハナリ○且ツ右ノ保險料ハ被保者ノ若年ナル程其額僅少ナル可シ是レ他ナシ被保者若年ナレハ其保險料ヲ拂フ可キ時間長カル可キヲ以テナリ○即チ人間ノ生命平均ノ繼續時間ニ基キテ定メタル統計表ニ依リ其生命ヲ保險ノ基礎ト爲ス可キ或人ノ年齢ニ從ヒテ計算シタル保險料平均額ノ表ヲ製出セリ

彼生命保險ハ常ニ會社事業ニ屬スルモノナルカ故



ニ(附言アリ)佛國及ヒ英國ニ於テハ會社間ニ競争アリタルカ爲メ保險金額ノ比例ニ應シテ保險料ノ割合ニ付テ定額ヲ設ケタリ即チ若シ被保者又ハ其人ノ生命ヲ限度トシテ保險ヲ定メタル人十五年乃至六十年ナルルハ保險料定額ノ割合ハ百ニ對スル一ト五十ヨリ六ト五十迄即チ百圓ニ付キテ一圓五十二錢ヨリ六圓五十錢ノ間ニ在リ從ツテ被保者契約ノ際ヨリ漸次年ヲ重ヌルニ從ヒ年々保險料幾分ノ騰貴ヲ來タスモノナリ

附言 蓋シ概チ生命保險火災保險共ニ同一ノ會社

ニ於テ爲スモノナリ然レモ右二個保險ノ元金并ニ其利益損失ノ管理ヲ異ニスルニアラサレハ右合併ノ保險ヲ認可ス可ラサルナリ

故ニ二十歳ニ至リタル壯年者ニシテ未タ結婚セス其尊族親ヲ保護スル者自己ノ死去ノ時期ノ爲メ尊族親又ハ結婚ノ後ニ舉ク可キ子ニ拂ハル可キ千圓ノ金額ヲ保險セシメント欲スルルハ毎年百圓ニ付キ一圓六十三錢ヲ拂フ可ク、三十歳ノ者ハ百圓ニ付キ二圓十一錢、四十歳ノ者ハ百圓ニ付キ二圓八十八錢、五十歳ノ者ハ百圓ニ付キ四圓十錢、六十歳ノ者ハ



百圓ニ付キ六圓六十六錢ヲ拂フ可シ  
 今ヤ保險ヲ依頼スル者悉ク七十歳迄生存ス可シト  
 想像センニ二十歳ノ被保人ハ毎年十六圓三十錢宛  
 ノ保險料ヲ拂ヒ五十年間ニテ八百十五圓ヲ拂フ可  
 ク而シテ其相續人千圓ヲ受取ル可シ、又三十歳ノ被  
 保人ハ二十一圓十錢宛ヲ四十度支拂ヒ此金八百四  
 十四圓、四十歳ノ被保人ハ二十八圓八十錢宛三十度  
 支拂フテ此金八百六十四圓、五十歳ノ被保人ハ四十  
 一圓宛二十度支拂フテ此金八百二十圓又六十歳ノ  
 被保人ハ六十六圓六十錢宛十度支拂フテ此金六百

六十六圓トナル可シ  
 一見スル所ニ於テハ此ノ如キ結果ヲ生スルニ付キ  
 驚愕スル者アル可シ蓋シ其最モ早ク保險ヲ依頼ス  
 ル者ハ八百十五圓ヲ支拂ヒ最モ遅ク保險ノ依頼ヲ  
 爲ス者ハ六百六十六圓ヲ支拂フモ何レモ千圓ヲ受  
 取ルベケレハナリ  
 然レトモ二十歳ノ被保人ハ何レノ時期ニ死去スル  
 モ常ニ其相續人ニ千圓ヲ遺留シ六十年ノ被保人ニ  
 十歳ト六十歳トノ間ニ死去セシトハ保險セラレサ  
 リシニ因リ毫モ遺留セサルヲ注視スヘシ然ラハ



六十歳ノ被保人ハ六十歳ニ至ル迄危険ヲ蒙リ五十九年間ハ自己固有ノ被保人タリ故ニ其後生存スルキハ爲メニ一箇ノ相殺アリトスルヲ當然ナリ然レモ壯年者ヲシテ保險契約ヲ爲サシムルヲ獎勵シ且ツ保險會社ヲシテ老年者ヲ保險スルノ傾向ヲ有セシメサルヲ必要タリ故ニ吾人ハ被保人ヲシテ被保人(保險會社)ノ利益ニ干與セシムルノ便宜ノ調和方法ヲ想像セリ

被保人ノ利得ハ其支拂フタル保險料カ年ノ經過スルト共ニ多額トナルニ從ヒ比例上ノミコテ増加スルコト非スシテ尙ホ數進上<sup>プログレシブ</sup>コト増加スルモノナリ○

總テ保險會社ハ毎年又ハ二ケ年目毎ニ其利益ノ一部分ヲ被保人ニ配當ス而シテ此配當ヲ爲スニ三箇ノ方法アリ即チ現金ニテ配當スルヲ、保險シタル資本ヲ増スヲ(毎年ノ保險料ヲ増加セサルヲ勿論ナリ)若クハ毎年ノ保險料ヲ減スルヲ是レナリ

被保人ハ利益配當ニ付キ右ニ述ヘタル三箇ノ方法中隨意ニ其一ヲ撰フヲ得可シ○道理上ヨリ觀レハ被保人現金ニテ配當額ヲ受取ラントスルヨリモ寧ロ毎年ノ保險料ノ減少ヲ撰フヲ良シトス、保險



會社ニ於テ製定セル表ニ因ルニ二十歳以上三十歳  
以内ニテ保險ヲ依頼スル者ハ數進上ノ減少ニ因リ  
其死去前ニ於テ保險料支拂ノ義務ヲ全ク免カル、  
トアルヲ證明シタリ

茲ニ吾人ハ此類ノ保險ノ大ニ有益ナルヲ證明ス  
ルニ付キ最早此上ニ長文ノ前論ヲ記載セサル可シ  
保險ノ實行ハ歐洲ト米國トニ於テ既ニ充分成功ヲ  
爲シタリ○日本ニ於テ保險契約ノ奏功ニ關シテハ  
此類ノ保險會社ハ政府ノ監査ヲ經テ堅固ニ設定シ  
以テ社員ニ對スル詐欺ト被保人ニ對スル無資力ト

ヲ避クルヲ要トス若シ否ラサレハ保險ニ關スル不  
信用ハ資本ヲ指出ス者ト保保人トノ方向ヲ轉スル  
ニ至ル可シ

第八百六十三條 何人ニ限ラス若干ノ金圓ヲ一時ニ  
拂ヒ又ハ毎年若干ノ保險料ヲ拂フ可キ約ヲ以テ其  
死後ノ爲メ其期ニ至リ相續人若シクハ其他ノ人ノ  
利益ニ其死去ニ因リ是等ノ人ノ受ク可キ損害ノ賠  
償トシテ元資金又ハ畢生間年金ノ支拂ヲ保確セシ  
ムルヲ得可シ

又第三ノ人ノ死ヲ期トシテ自己又ハ他人ノ爲メ賠



償ヲ約權セシムルヲ得可シ

註解

第八百六十三條 今ヤ此種ノ保險ニ供シタル十ヶ條ノ敷衍ニ從事セントス

生命保險ノ契約ハ有償名義ニ於ケル契約ナルヲ論ヲ俟タス是レ蓋シ法律ハ被保人カ償金ヲ得ル爲メニ保險人ニ一箇ノ有償物ヲ與ヘ又ハ約束スル所以ナリ扱テ此有償物ハ概テ毎年ノ保險料ナリト雖モ或ハ一度ニ支拂フ可キ金額ナルコトアル可シ○故ニ例ヘハ或人其相續人ニ千圓ノ償金ヲ確保セント欲

シ且ツ其生存中ニ六百圓又ハ六百圓余ヲ處分シ得可キニ之レヲ處分セスシテ保險會社ニ一時金額ヲ支拂ヒ以テ自己ノ死期ニ付キ此會社ヲシテ千圓ヲ拂ハシムルノ約束ヲ結フヲ得可シ  
 保險會社ニ於テハ被保人ノ年齢ノ増スニ從ヒ多分ノ金額ヲ請求ス可キコト當然ナリ何トナルニ會社ノ利益ハ此場合ニ於テモ尙ホ毎年ノ保險料ヲ支拂フ場合ノ如ク會社カ其支拂ヲ受ケタル金額ヨリ獲得ス可キ利益ニ外ナシ然ラハ此利益ハ保險料ヲ請取ル時ト償金支拂ノ時トノ間ニ於ケル時間ノ永延ナ



ルニ從ヒ多額トナル可キモノナリ  
 法文ニハ保險人ノ約シタル償金カ元資又ハ畢生間  
 ノ年金ナルコトアル可シト述ヘタリ○茲ニ吾人ノ論  
 究ニ從事スル場合ニ於テハ概テ元資ノ場合ニシテ  
 以上掲ケタル事例及ヒ以下ニ掲ク可キ事例ニ於テ  
 ハ常ニ被保人ノ死去ニ付元資ヲ拂フヘキ場合ヲ想  
 像ス然レモ若シ被保人ハ其死期ニ至リ放蕩ナル相  
 續人ヲ遺ス可キモハ畢生間ノ年金ニ付確保セシメ  
 以テ該年金ヲ差押フ可カラサルモノト爲スニ利ア  
 ル可シ

若シ償金ハ右ノ如ク元資金ニアラスシテ畢生間ノ  
 年金タルモハ保險人ハ被保人ヨリ請求ヲ受ク可キ  
 金額ヲ確定スル爲メ唯其ノ年齢ヲ參酌ス可キノミ  
 ナラス猶ホ且ツ保險ノ得益者ニ支拂フ可キ年金ノ  
 全額ヲ確定スル爲メ其得益者ノ年金迄モ斟酌ス可  
 キナリ  
 一般ニ被保人ハ其死去ヲ慮リ死去ノ時ニ關シ其相  
 續人ノ爲メニ約スルモノナリ此場合ニ於テハ被保  
 人ハ保險ノ利益ヲ獲得ス可キ人ヲ名々指定スルノ  
 要用ナシ是レ則チ其正統又ハ遺囑相續人、即チ被保



人ノ其他財産ヲ獲得スル人ナリ若シ又被保人其死去ノ時負債ヲ遺留セシルハ其債主ハ償金ヲ以テ其辨濟ヲ得可キハ必然ナリ何トナレハ債主ハ被保人ノ死去ニ依リ損害ヲ蒙フル人ノ中ニ列スレハナリ」  
 又被保人ハ相続人中ノ一人ヲ指名シ其他ノ者ヲ除去シ右一人ノ爲メ或ハ相続人タル身分ヲ有セサル親族ノ人ノ爲メ或ハ其配偶者ノ爲メ又或ハ其家族外ノ人ノ爲メ償金ヲ約束スルヲ得可シ  
 以上ノ規則ハ第一項ノ中ニ包含セリトス  
 第二項ハ被保人ニアラス他人ノ生命ニ基ツキ保險

ヲ爲スヲ得ルヲ掲載セリ即チ被保人死去ノ損害ヲ賠償スル爲メ其死去ニ付キ償金ヲ約セスシテ同一ナル目的ヲ以テ他人ノ死去ニ付キ償金ヲ約スルヲ得可シ然ルルハ契約者生殘リタルルハ其身ニ償金ノ辨濟ヲ約スルヲ妨ケス(若シ契約者ノ生命ニ基ツキ即チ其死去ニ對シ保險ヲ約スルルハ是レ爲ス可カラサル者)若シ其先死シタルルハ償金ハ其相続人ニ辨濟セララル可シ

第八百六十四條 第三人ノ生命保險契約ハ其人ノ明瞭ナル承諾ヲ以テスルニアラサレハ有効ナラス



全上ノ場合ニ於テ其人ノ死去ニ因リ請求シ得可キモノトナル賠償額ハ其人ノ死生ニ付査定シ得可キ利益ヲ有スル者ノ爲メニアラサレハ約權スルヲ得サルモノトス

右保險契約ヨリ生スル權利ノ讓渡モ亦其第三人ニ承諾ヲ與ヘ且其讓受人之カ死生ニ付利益ヲ有スルキニアラサレハ有効ナラス

## 註解

第八百六十四條 第三ノ人ノ生命ニ基キタル保險ハ其第三ノ人ノ承諾アルニ非サレハ成立セサルモノ

ニシテ右ノ條例タル第三ノ人ノ生命ニ基キタル畢生間ノ年金ニ關シテ設定シタル第八百十六條ノ條例ト同一ノモノナリ○即チ其理由ニ至リテハ二個ノ條例ニ於テ同一ノモノナリ是ヲ以テ縱令ヒ法律上ニテハ被保人ノ該第三ノ人ノ生命ニ付テ利益ヲ有スヘキヲ要スルト雖モ(次項參觀)該第三ノ人ノ承諾タル其生命上何等ノ危險ナキヲ擔保ヨリハ尙ホ一層擔保スル所アル可キナリ  
蓋シ實際ニ於テハ子其父ノ死去ニ基キテ保險ヲ約シ婦其夫ノ死去ニ基キテ保險ヲ約スルヲ想像シ



得サル可シ何トナレハ此ノ如キ注意ハ其父其夫自  
カラノ意ニ出タルキハ其者ノ譽レト云可キモ其子  
其婦ニ出タル片ハ其名譽ヲ欠クモノナレハナリ然  
レモ權利者ハ其義務者ノ生命ニ基キテ元資ヲ確保  
セシムルヲ想像シ得可シ但シ之レ義務者ニ他ノ財  
産ナク只其人ノ働キヲ以テ債主權ノ目當トス可キ  
片ニ限ル可シ

火災其他ノ物件ヲ毀滅ス可キ災害ニ關スル保險ニ  
於テ法律上被保者カ該物件ノ保存ニ關シテ査定シ  
得可キ利益ヲ有スルヲ要求シタルカ如ク第三ノ

人ノ死去ニ基キタル保險ニ於テモ被保人(附言アリ)  
其終了ニ依リテ自己ノ權利ヲ失スル所ノ第三ノ人  
ノ生命保存ニ利益ヲ有セサル可ラス何トナレハ此  
事タル該第三ノ人ノ承諾ヲ以テ其生命ニ危険ナキ  
ヲ保安スルノミナラス尙ホ其生命ニ對スル一切ノ  
危害ヲ豫防スルノ方法タル可ケレハナリ  
蓋シ被保者其人ノ生命ニ基キテ定メタル保險ノ場  
合ニ於テハ本條例ヲ適用スルヲ得ス何トナレハ最  
モ屢々得益者ハ其正當相續人ナル可ク而シテ其相  
續人未タ確然定マリタルニアラサルモ將來被保者



ヨリ最モ巨額ナル相續財産ヲ享受スルコアル可キ  
 場合ヲ保險ヨリ除却スルハ難カル可ケレハナリ  
 法律ハ此ノ如ク第三ノ人ノ生命ニ基キタル保險ノ  
 得益者無償又有償ノ名義ニテ右保險ヲ讓渡セント  
 欲スルコアルヲ想像シ其讓渡ニ付テハ保險契約ノ  
 組成自ラニ關シテ定メタルト同一ノ條件ヲ要セリ  
 卽チ此讓渡ニ關シテ第三ノ人ノ承諾ヲ經ルヲ要シ  
 且ツ讓受人ハ讓渡者ト等シク其第三ノ人ノ生命保  
 存ニ利益ヲ有セサル可ラス  
 附言 被<sup>○</sup>保<sup>○</sup>者<sup>○</sup>ナル語ハ爰コテハ省畧シテ用キタル

モノニシテ法文ニハ其利益ノ爲メ償金ヲ約權シ  
 タル人ト云ヒ一層正確ニ掲載セリ何トナレハ若  
 シ或人其相續人中ノ一人又ハ其一友人ノ爲メ第  
 三ノ人ノ生命ニ基キテ保險ヲ爲サシメタルキハ  
 被<sup>○</sup>保<sup>○</sup>者<sup>○</sup>タル約權者ハ其第三ノ人ニシテ第三ノ人  
 ノ生命保存ニ利益ヲ有ス可キハ該保險ノ得益者  
 タル可ケレハナリ

第八百六十五條 被保人ノ相續人タラサル人ノ利益  
 ニ爲シタル保險契約ハ若シ其人ヨリ被保人へ右保  
 險ノ對價ヲ拂ハサルキハ其實被保人ヨリ一箇ノ贈



與ヲ爲シタルモノト看做ス可シ

註解

第八百六十五條 吾人ハ前條(第八百六十三條)ニ於テ  
 被保人ノ相續人又ハ其他ノ人ノ爲メニ償金ヲ約權  
 シ得ルコトヲ述ヘタリ○扱テ其被保人ノ一名ノ相續  
 人又ハ數名ノ相續人ノ爲メニ償金ヲ約權セシキハ  
 贈與アルモノニ非ス即チ其被保人ハ己レノ相續財  
 産ヲ變更セシ者ニシテ其償金ノ約權以後ハ此相續  
 財産ノ全部若クハ一部ハ入額中ヨリ引去リテ多少  
 正當ニ貯存セシ小額ヲ以テ組成スル代リニ償金ノ

債主權ヲ以テ組成スルモノナリ  
 一名ノ相續人ノ爲メニ實行セル償金ノ約權ハ贈與  
 ノ性質ヲ有スルヤ否ヲ知ルノ問題ハ被保人カ此手  
 段ニ因リ他ノ相續人ヲ害シテ右一名ノ相續人ヲ利  
 セシメント欲セシキニ非サレハ發生スルコトナシ然  
 レモ此問題ハ相續ノ總論ニ關スルモノニシテ我草  
 案カ一名若クハ數名ノ相續人アルキノ相續方法ニ  
 關シテ規定スルキニ非サレハ利益ナキモノトス  
 其レ然リ然リト雖モ相續人ニ非サル者ニ償金ヲ拂  
 フ可キキニシテ此者償金ノ代用物ヲ供給セサルキ



ハ則チ此者ハ一箇ノ贈與ヲ受クルコト明カナリ○此  
 ノ如ク贈與ヲ受クルトノコトニ付キ疑團ヲ懷ク者ア  
 ル可シ蓋シ被保人ハ自己ノ入額中ヨリ引去リタル  
 毎年ノ輕少ナル供給ノミチ爲シテ保險人ノ約務ヲ  
 獲タルモノナレハナリ然レモ其貯蓄セシ入額ノ贈  
 與ハ元資ノ贈與ト異ナルコトナシ加之茲ニハ償金ハ  
 入額ノ毎年ノ利用ヨリ生ス可キ元資ト同様ナル眞  
 ノ元資ナリ

但シ此贈與ハ其法式ニ就テ觀レハ贈與ニ非サルモ  
 其實ヲ論スレハ贈與ナリ即チ贈與ヲ爲シ及ヒ贈與  
 ヲ受クルノ能力及ヒ贈與ノ大小又ハ廣狹彼謂ユル  
 相續及ヒ贈與ノ事項ニ於テ「處分」得可キ部分ト稱  
 スルモノニ付テハ贈與ナリ

第八百六十六條 被保人ノ方ニ詐欺アラサリシキト

雖モ危險ノ査定上ニ影響ヲ及ホシ得可キ情狀ヲ知  
 テ之レヲ保險人ニ知ラシメサリシモハ保險人其場  
 合ノ輕重ニ從ヒ第八百五十一條ニ據リ或ハ其保險  
 契約ノ取消或ハ其保險料ノ増加或ハ賠償ノ減額ヲ  
 請求スルコトヲ得可シ



第八百六十六條 本條ノ條例ハ第八百五十一條ノ條例ニ類似スルモノニシテ死去ニ對スル保險及ヒ火災保險ノ事項ニ於テハ最モ屢々其適用ヲ爲スモノトス而シテ火災保險ニ關シテハ保險人ハ被保人ノ殆ント一切ノ申込ヲ調査シ得ルモ死去ニ對スル保險ニ至リテハ保險人ヲシテ尋常ノ保險表ニ因テ定メタル保險料ヲ約束セシメ且之レヲ以テ満足セシムルモノハ管ニ被保人ノ年齢ノミニアラスシテ尙其健康ノ皮相上ノ形態又ハ其申込ミタル健康ノ形態ナリトス然ルニ人体機關ニ係ル病ノ如キニ至リ

テハ之レヲ隱蔽スルニ容易ナリ○保險會社ハ生命保險ヲ依頼スル者ヲシテ細密ナル醫術上ノ試験ヲ受ケシムト雖モ疾病アル者其内部ノ或ル病徴ヲ申込マサルハ醫師ノ診斷ニ因ルモ病症ヲ發見シ得サルヲ往々是レアリ加之人体機關ニ係ル病ニハ往々間斷アリテ此間斷ノ時期中ニハ患者ハ極メテ健康ナリト見ユルモノナリ  
 若シ又保險契約後ニ至リテ疾病發覺シ又ハ其旨ノ申込ミアリタルハ保險人ハ保險料ヲ増加シテ保險契約ヲ保持シ又ハ保險料ヲ返還セスシテ其契約



ヲ無効トスルコトヲ得可シ○若シ又患者ノ死去後ニ於テ其病症ノ發覺シタルキハ第八百五十一條第二項及ヒ第三項ニ掲ケタル小區別ヲ爲シ即チ若シ疾病カ死去ニ影響ヲ及ホスカ又ハ否ラサルキハ保險人ハ或ハ償金ヲ支拂ヒ或ハ之レヲ支拂ハサル可シ

第八百六十七條 又被保人ハ自己ノ生命ニ關シ又ハ

第三人ノ生命ヲ期トシタルキ其人ノ生命ニ關シテ自ラ知リタル危險ノ非常ナル増加ヲ保險人ニ知ラシメサル可カラス

自己ノ隨意ナルト強令ナルトヲ問ハス陸海軍ノ現

役服務又ハ大航海ニ關スルキハ保險人保險料ノ増加ヲ要求シ又ハ既ニ保險ノ經過シタル時間ニ應分ノ賠償ヲ拂テ將來保險ノ取消ヲ要求スルコトヲ得可シ

若シ被保人保險人ト保險料ノ追加ヲ規定セスシテ軍務又ハ航海ノ直接ナル結果ニ因リ死去シタルキハ保險契約ハ當然解除スルモノトス  
内國ノ湊ヨリ湊ニ航スル旅行ノ外總テ海上旅行ハ本條適用ノ點ニ於ケル大航海ト看做ス可キモノトス



## 註解

第八百六十七條 抑モ被保人ハ契約ヲ締結スルノ日ニ於テ既ニ發生スルコトアル可キ恐レアル危険ヲ申込ム可キノミナラス猶ホ保險期限間不意ニ突起スルコトアル可キ危険ノ増加ヲ申込ムノ義務アルモノトス然レモ此場合ニ於テハ本法被保人ニ負擔セシムルニ第一非常ニシテ第二其知ル所ノ増加ヲ申込ムノ義務ノミヲ以テセリ

第一其増加ノ非常ナルコトヲ要ス是レ稀レナル疾病ト雖モ被保人之レヲ豫知セサル可カラサルカ故ナ

リ第二被保人之レヲ知ルヲ要ス此條件ハ契約成立ニ關シテハ要セサル所ノモノナリ何トナレハ契約成立ノキニ於テ重大ナル錯誤アリタルモハ保險ヲシテ無効ナラシム可ケレハナリ蓋シ第三ノ人ノ生命ニ付キ保險ヲ爲シタルモハ被保人未タ必スシモ契約後ニ發生シタル危険ヲ知ル可キニアラス被保人ノ此一般ノ義務ニハ制裁ノ存スルコトナシ何トナレハ右ノ危険ハ縱令ヒ之レヲ申込ムモ被保人ニ於テ未タ必スシモ之レヲ減スルコト能ハス而シテ保險料ノ補足ヲ生スルコト能ハサルヲ原則トスルカ



故ニ申込ヲ爲サ、ルモ保險ノ無効ヲ惹起スルハ至當ナラス或ハ被保人ノ惡意又ハ重過失アリテ危害ヲ防止スルヲ得可カリシ保險人ノ爲メニ確然タル損害アリタルルハ賠償ノ減少ヲ來タスヲ得可キカ

然レモ本條ニハ特ニ危險ノ非常ノ増加アル二个ノ場合ヲ豫定セリ

第一兵役及ヒ第二航海

抑モ兵役ハ義務上ノモノタルト最モ多シト雖モ未タ必スシモ保險人ノ豫見ス可キ性質ノ危險ヲ

ラス○加之ス本條ニハ兵役ニ就クノ隨意ニ出ルト強令ニ出ルトヲ區別セス

「ロング、クル」ト稱スル海上ノ旅行(遠海航行トモ譯ス可キカ)モ亦タ著シク死去ノ危險ヲ増加スルモノニシテ豫メ申込マサル可カラサルモノトス

蓋シ保險人ハ海陸軍人ヲ保險スルヲ拒絕シ又ハ自餘ノ者ヨリ更ラニ多額ナル保險料ヲ求ムルヲ得可ク又保險以後此種ノ危險起リタル場合ニ於テモ同一ナルコトアル可キカ故ニ保險料ノ補足ヲ請求シ又ハ保險契約ヲ取消スヲ得可シ○取消ノ場合ニ於



テハ既ニ拂込ミタル定料ニ應シテ償金ヲ拂フ可シ  
 何ントナレハ被保人ノ過失ナキカ故ニ保險人此解  
 除ノ利ヲ得ルヲ至當ナラサレハナリ  
 又本條ニハ被保人此位置ヲ規定セス被保人又ハ第  
 三ノ人ニシテ其生命ヲ以テ保險期限トシタル者ノ  
 死去カ申込ナキ二个ノ危險ノ一(兵役又ハ航海)ニ出  
 テタルヲ仮定ス此際ニ於テハ「當然」解除ノ行ハル  
 ヲモノトス但シ拂濟ノ保險料ニ應シテ償金ヲ拂フ  
 可キナリ  
 又本條ニハ遠海航行ト稱ス可キモノ、何タルヲ定

ムルヲ要シタリ

日本ノ如キ海ニ繞圍セラレ多數ノ島嶼ニ分レタル  
 國ニ於テハ被保人ヲシテ多少航海ノ自由ヲ得セシ  
 メサル可ラス○總テ商業ノ爲メ日本ノ諸港ニ到ル  
 航行ハ其距離ノ如何ニ拘ハラズ佛國ニ於テ「近海小  
 航行」ト稱スル所ノモノニシテ申込ナキモ保險料ノ  
 増加ナク爲スヲ得可キモノナリ然レモ日本ヨリ  
 支那朝鮮其他日本國外ニ至ルノ航行ハ海上商業ノ  
 用語ニ於テハ猶ホ「近海大航行」ト稱スルニ拘ハラズ  
 本章ノ事項ノ點ニ付テ觀レハ遠海航行ト稱ス可キ



モノナリ

第八百六十八條 毎年ノ保險料支拂ノ虧缺ハ第八百五十三條ニ定メタル條件ニ從ヒ保險契約解除ノ原由トナルモノトス

然レモ保險料ヲ引續テ三ケ年間又ハ其以上既ニ拂ヒ來リタルモハ保險人其時間ニ應分ノ賠償ヲ拂フ可キモノトス

註解

第八百六十八條 第八百五十三條ニ保險料ヲ區別シテ被保人ノ住所ニ往請ス可キモノト保險人ニ送附

ス可キモノト爲シタルハ人ノ知ル所ナリ

本條ノ場合ニ於テモ亦タ火災保險ニ關スルカ如ク被保人ノ家ニ保險料ヲ往請ス可キ片之レヲ要求セ

ス又ハ辨濟ナキヲ證認セサルモ其權利ヲ失フコトアル可ラス之レニ反シ其保險料ノ送附ス可キモノタルモハ被保人辨濟ノ處置ヲ爲サ、ル可ラサルカ故ニ之レヲ爲サ、ルハ其過失ナリ○此點ニ付テハ第八百五十三條ニ依循ス可キモノトス而シテ該條ニモ亦タ保險契約ニ規定シタル條件ニ依循ス可シトセリ○概テ會社ハ滿期後猶豫ヲ與フ可ク而シテ此



猶豫期限間ハ被保人辨濟ヲ爲シテ其効益ヲ得可シ  
 火災保險ト我輩カ茲ニ論定スル所ノ保險トノ差異  
 トスル所ハ此場合ニ於テハ被保人將來ニ向ヒ失權  
 スルモ三年以上保險料ヲ拂込ミタルキハ此既濟ノ  
 保險料ニ付キ權利ヲ保有スルコト是レナリ○蓋シ火  
 災ノ償金ハ漸次之レヲ獲得スルモノニアラス災害  
 ニ因リ一時ニ獲得スルモノナレバ死去ノ償金ハ之  
 レト異ナリ毎日之レヲ獲得スト謂フモ敢テ不可ナ  
 カル可シ何トナレハ生命ハ毎日人ヲシテ死ニ近カ  
 ラシムルモノナレハナリ

若シ未ダ三年間保險料ヲ拂ハサリシキハ保險人其  
 幸運ヲ失フタル償トシテ之レヲ得益ス

第八百六十九條 其死去ヲ保險セシメタル人果シ合

又ハ自殺ノ結果ニ因リ死去シタルキハ保險人賠償  
 ナ拂フノ義務ヲ全ク免カル、モノトス  
 若シ死刑ニ處セラレテ死去シタルキハ保險人既ニ  
 收領シタル保險料ニ應分ノ賠償ヲ其承權人へ支拂  
 フ可シ

註解

第八百六十九條 歐洲ニテ保險會社ハ本條ニ豫定セ



シ三個ノ場合ニ於テハ即チ其生命ニ基キテ保險ヲ定メタル所ノ人果シ合、自殺、死刑ニ依リテ死去シタルハ其保險ヲ無効トナシ保險人ヲシテ一切ノ賠償金ヲ免カレシム何トナレハ是等ノ場合ニ於ケル死去ハ過失、及ヒ法律違犯ノ結果ナレハナリ蓋シ人或ハ前ニ述ヘタル最初二個ノ場合ニ於テハ其生命ニ基キテ保險ヲ定メタル所ノ人其故意ヲ以テ死ヲ招キタルモノト云ヒ得ルカ故ニ只此場合ニ限リテ嚴ニ前述ノ論決ヲ認許ス可シト論スル者アリ○其第三ノ場合即死刑ノ場合ニ於テハ其重罪ニ

ハ己ニ法律上ノ處分ヲ以テ最重刑ヲ科シタルカ故ニ之レニ加フルニ全ク普通法ヨリ出ツル所ノ利益上ノ責罰ヲ以テスルハ少シク酷ニ過クル所アリト見做スヲ得可ク且ツ右ノ責罰タル其犯人ヨリハ寧ロ其相續人ニ及フモノタル可シ然レモ又此死去ノ原由ヲ豫見ス可ラサル保險人ノ利益ヲ保護セサル可ラス是レ即チ草案ニ於テハ被保人死去ノ際其既濟ノ保險料ノ割合ニ應シテ賠償金ヲ減除シ以テ保險人ニ満足ヲ與ヘタル所以ナリ蓋シ法律上保險ノ得益者カ其生命ニ基キテ保險ヲ



定メタル或人ヲ死ニ致セシキハ保險人ニ於テ其犯人タル得益者ニ對シ何等ノ賠償ヲモ負擔セサル可キヲ明言スルヲ要セサルヤ言ヲ待タスシテ明カナリ○此場合タル火災保險ニ於テ被保人自ラ放火シテ家屋ヲ燒失セシメタルキト同一ナリトス○爰ニ論スル所ノ場合ニ於テハ既濟ノ保險料ノ割合ニ應シタル賠償金ヲ負擔スルニモ及ハサルナリ然レモ該得益者ニ歸責ス可キ過失殺ノ場合ニ此失權ヲ擴張ス可ラス

第八百七十條 應分ノ賠償ヲ支拂フ可キ場合ニ於テ

其起算根據ヲ保險契約ニ因リ規定シアラサルキハ  
 裁判所ニ於テ其數量ヲ斷定ス可シ

註解

第八百七十條 歐洲ニ於テ生命保險會社ハ豫シメ賠償割合ノ定額即チ定價表ヲ製シ置キ保險人ニ於テ死去前ノ賠償ヲ免レントスルキ就中被保人其毎年ノ保險料拂込ヲ停止セシキハ其表ニ依リテ支拂ノ額ヲ定メ死去前ノ賠償ヲ免ル、ノ方法ニ供セリ○即チ裁判所ヘノ訟求ヲ要セサル爲メ常ニ此定額表ニ依リテ保險契約ヲ定ムルナリ



蓋シ日本ニ於テ早晚興起ス可キ右種會社モ恐クハ之レト同一ノ注意ヲ缺クナカル可シ然レモ其初設ノ會社此注意ヲ缺キタル場合ニ於テハ法律ハ之レヲ裁判所ニ委シ以テ保險料ノ割合ニ應シ正當ナル補償ヲ爲サシムルヲ得可シ○例ヘハ茲ニ其齡三十年ノ人アリ一千圓ノ保險ヲ爲サシメ毎年二十圓ノ保險料ヲ支拂ヒタリシニ十年ノ後(其時ノ年齡四十)其保險料ノ拂込ヲ停止シタリトセンニ此時已ニ二百圓ヲ拂フタリ即チ此場合ニ於テ被保人健康ノ有様及ヒ其長壽ノ概算ヲ查定スレハ恐クハ七十年

ニ至ル迄生存ス可ク尙ホ其三十年間ニ六百圓ヲ拂フ可キモノタル可シ然ルニ僅カニ十年間ニ其四十年間ニ支拂フ可キ保險料總額ノ四分一ヲ支拂ヒタルモノナレハ之レニ一千圓ノ四分一即チ二百五十圓ヲ與フ可キモノトス○若シ其長壽ノ運僅少ナル片ハ之レニ應シテ一層巨額ノ賠償ヲ支拂ハサル可カラス

右ニ關シ茲ニ注意シ置ク可キコトアリ即チ若シ保險會社右ニ關シ(買返)ト稱スル一ノ定額ヲ定メ置キタル片ハ被保人ノ年齢ト其己ニ支拂ヒタル保險料ノ



額ニ基キテ賠償金ヲ精算ス可キモノニシテ各被保人長壽ノ概算ニ基キテ之レヲ定ムルヲ要セサルナリ○此場合ニ於テ賠償ノ定額ナキハ正當ニ右ノ査定ヲ爲サ、ル可カラサルナリ

第八百七十一條 第八百三十二條第八百三十三條第

八百四十四條第八百四十五條及ヒ第八百四十七條ハ生命保險ニモ適用ス可キモノトス

然レモ若シ被保人第八百四十四條及ヒ第八百四十五條ノ場合ニ於テ保險契約ノ利益ヲ失フタルハ既濟ノ保險料ニ應分ノ賠償ヲ受ク可キモノトス

註解

第八百七十一條 此送リノトタル之レヲ證明スル最

モ容易ナリトス是レ他ナシ生命保險ハ保險人ノ職務ヲ執ル會社ノ爲メニハ商事上ノ事業ナリト雖モ被保人ニ取リテハ純然タル民事上ノ所爲ナルヲ以テナリ(第八百三十二條比較)

蓋シ組織、管理共ニ其宜キヲ得ス其義務ニ應スル爲メ充分ノ資本ヲ有セサル會社アリテ起ルノ恐れアリ即チ政府ノ認可ト不認可トヲ以テ此危險ヲ豫防スルヲ得可キナリ(第八百三十三條比較)



吾人ハ政府ニ於テ火災ニ對スル全國保險ヲ企圖セ  
 ンコトヲ欲スル旨ハ己ニ業ニ説述セシ所ニシテ尙ホ  
 又吾人ハ政府カ人民ニ於テ生命保險ノ企テヲ希望  
 スルヲ待テ該保險ヲ企圖センコトヲ欲ス可シ然レト  
 モ吾人ハ全國民ヲシテ強テ生命保險ヲ爲サシムル  
 ニ非ス唯其隨意ニ出ツルヲ希望スル而已但シ政府  
 ニ於テハ少ナクモ該保險ニ付キ組成スヘキ始初ノ  
 會社ヲ保護ス可キナリ○日本ノ下等ノ官吏ニシテ  
 該保險ヲ爲スコトニ獎勵セラレハ大ニ希望ス可キ  
 コトトス何トナレハ下等官吏ノ過半ハ何レモ生活ス

ル丈ケノ俸給ヲ受クルニ過キサレハ自己ノ死去ス  
 ルルハ其親族ヲ不幸中ニ遺留スルモノナレハナリ  
 ○若シ又文官退隱料ノ規則ニシテ充分整頓セシニ  
 於テハ是レ保險ノ地位ニ代ルモノナリト雖モ吾人  
 ニ於テハ未タ俸給ニ割合シタル貯蓄法ヲ以テ一般  
 ニ設定シタル退隱料ノ規則アリト信セス其レハ扱  
 テ置キ職業、技術、商業及ヒ其他ノ職業ニ因テ生活ス  
 ル所ノ尋常人民ニ至リテハ退隱料ヲ受クル者ニ非  
 サレハ之レカ代用物ハ生命保險ナリト云フ可シ  
 被保人ニ於テ保險契約ヲ爲スニ方リテハ其既ニ第



一ノ保險人ト保險契約ヲ結約セシ旨ヲ申込ミ而シテ其更ラニ結約セント欲スル旨ハ之レヲ第一ノ保險人ニ告知スヘシト定メタル第八百四十四條及ヒ第八百四十五條ヲ以テ法律ハ生命保險ニ適用スベシト明言セリ○其理由ハ火災保險ニ付テモ亦殆ソト同一ナリ即チ火災保險ノ場合ニ於テハ被保人カ數多ノ保險契約ニ因テ被保物ノ實價ヲ超過シタル償金ヲ獲得セントスルヤテ避クルニ在リ、生命保險ニ付テハ被保人カ其死去ニ因リ己レノ相續人ニ讓ス可キ損害ニ割合シテ不相當ナル巨額ヲ約スルヤ

ヲ恐ル可キナリ  
此ノ如ク場合ノ類似アルニ拘ラス茲ニハ前述ノ數條ニ牴觸スル規則ヲ附記スルヲ要トス則チ前述ノ數條ハ或ル場合ニ於テハ既ニ支拂ヒタル保險料ヲ返還セス尙ホ將來支拂フヘキ保險料ヲ減少シ又ハ減少セスシテ保險契約ヲ解除スルトテ許容セリ然ルニ茲ニハ此ノ如キ嚴則ヲ適用スルハ正當ナラサルヘシ而シテ被保人ノ死去ハ火災ト異ナリテ早晚保險人ヲシテ必ラス償金ヲ拂ハシムル所ノ避ク可カラサル事件ナリ故ニ茲ニハ被保人ヲシテ前條ノ



目的ニシテ又既ニ數多ノ適用ヲ爲セシ割合上ノ償金ニ服從セシムルヲ以テ當然トス

第八百四十六條ハ生命保險ニ適用ス可キモノト爲シタル火災保險ノ箇條中ニハ算入セサルモノナリ其理由ハ人ノ生命即チ寧ロ生命保存ニ關スル金錢上ノ利益ハ火災ニ因テ消滅ス可キ有形物ト異ナリテ完全ナル價額ヲ有セストノコトニ在リ是ヲ以テ若シ同一ノ死去ニ對シ數多ノ有効ナル保險契約アリトセハ其各保險人ハ自己ノ約束セシ償金ヲ拂ハサルヲ得ス然ルニ火災保險ニ至リテハ各保險人ハ其

消滅セシ有價物全部中ニテ唯其一部ヲ拂フ可キニ過キス

又法律ハ第八百四十七條ヲ以テ死去ニ對スル保險ニ適用ス可シト明言セリ是レ即チ被保人ノ死去ニ付キ甚ダシキ危險ヲ蒙ムルヤヲ恐ル、保險人ハ自己ノ爲メ更ラニ第三ノ人ヲシテ右被保人ノ生命保險ヲ爲サシムルノ權利ニ外ナシ

第八百七十二條 「トシテ」又「結社及ヒ其他生命即チ死去ニ對スル相互保險ノ結社ハ政府ノ特別允許ヲ得タル上ニ非サレハ組成スルコトヲ得ス



註解

第八百七十二條 「トントンチーヌ」即チ「トントンチニエール結」社トハ數人相ヒ集リ同等又ハ不同等ノ元資ヲ持寄リ或ル時期經過シタル後此元資ニ其利息ヲ増加シ實際拂ヒ込ミタル金額ニ準シテ其總額ヲ此時ニ生存セル社員ニ分配センコトヲ約スル契約ヲ云フ此結社法タル一種ノ生命相互ノ保險トモ謂ツ可キモノナリ

法律ハ其政府ノ特別ノ準許ヲ要スル旨ヲ定ム

佛國ニ於テモ亦タ同一ノ制アリ(千八百六十七年七

月二十四日法律第六十六條)

抑モ保險ヲ趣旨トスル結社タル實ニ多種ニシテ法律ハ其正當ノ利益、良好ナル準備法ノ觀ヲ裝シテ他人ノ資産ヲ得ル奸計タランコトヲ恐レサル可ラサルナリ

附言 「トントンチーヌ」ナル語ハ此結社ヲ發明シタル伊

太利人ノ名ニ由來ス蓋シ其發明者ハ「トントンチ」家ノ一人ナリ



百二十二丁	百十四丁	七十八丁	九丁	
七行	三行	十行	三行	正誤
供給トシテハ	其ハ術	「ハ」	際ハ換	
術				



正誤

十六丁 十行

成ハ或

三十三丁 七行

故ノ下ニヲ脱ス

四十一丁 六行

テハカ

七十六丁 三行

會社ハ社員

百六丁 九行

人ハ員

百八丁 一行

延ハ廷

百七十八丁 二行

破ハ被

二百三十一丁 四行

( )ノ内テハ衍

二百五十八丁 三行

( )ノ内該條云々ハ衍



二百九十二丁	九行	規則ノ下ノハチ
三百七丁	五行	レハ衍
三百十二丁	九行	ソハシ
三百二十丁	十行	トハト
三百二十七丁	七行	シハク
三百二十九丁	六行	規ハ配

正誤

十六丁	七行	込ノ下ハ衍
三十二丁	九行	レハル
三十七丁	八行	更ハ實
四十六丁	四行	者ノ下其ヲ脱ス
五十一丁	四行	又ハ又
九十三丁	十行	律ノ下ノヲ脱ス
九十六丁	七行	受讓ハ讓受
百八丁	八行	ルヲハルノ
百九丁	七行	告ハ言

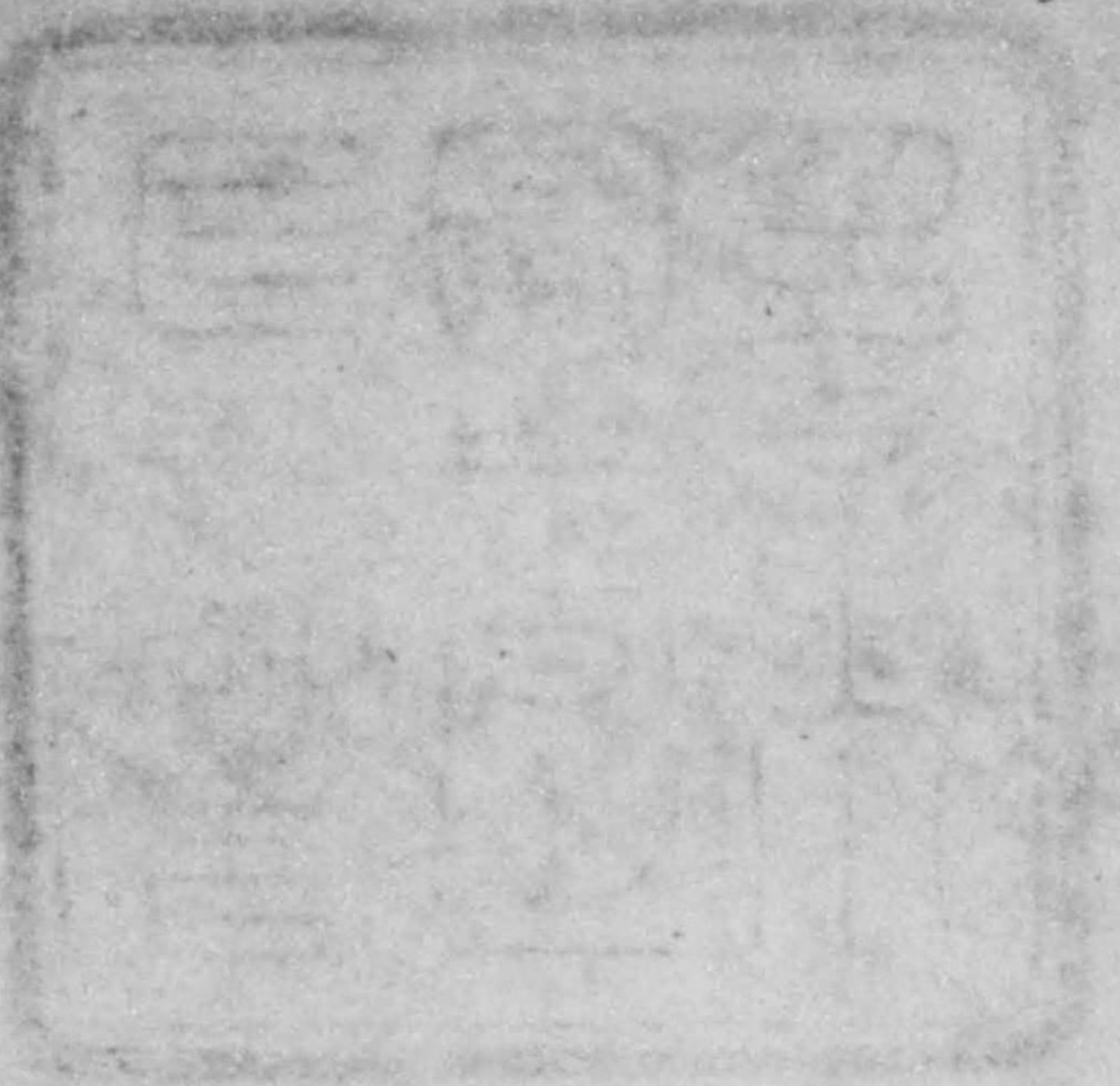


百十一丁 五行 做ノ下スヲ脱ス  
 百十九丁 二行 有害ノ圈點ハ衍  
 百四十一丁 一行 又ハノ下其ヲ脱ス  
 百四十八丁 三行 定ハ足

正誤

六十六丁 三行 敗ハ散  
 百二丁 四行 ノ目險ハ險ノ目  
 百二十五丁 七行 恐ハ忘  
 百三十三丁 十行 リハクハハノ  
 百四十一丁 四行 額ハ價  
 百四十四丁 三行 爲ノ下スヲ脱ス  
 百七十二丁 十行 シノ下モハナルヲ脱ス  
 百七十四丁 二行 下ハ降  
 百七十七丁 六行 クハキ  
 百八十四丁 七行 火際ハ火災





百九十一丁

六行

合ハ所

百九十九丁

十行

保○險○人○ハ○被○保○人○

二百八丁

六行

被○保○人○ハ○保○險○人○

二百二十一丁

四行

被○保○人○ハ○保○險○人○

二百二十六丁

九行

モ○ノ○下○ノ○チ○脱○ス

二百四十二丁

二行

當○ハ○常

二百四十六丁

五行

保○險○上○ハ○保○險○人○

二百五十二丁

八行

奏○ハ○泰

二百六十六丁

七行

債○ハ○價

二百九十二丁

二行

鳥○ハ○鳥



